



COLLEGE OF COMPARATIVE CULTURE

比較文化学類への招待



比文らしく、
自分らしく。

2025

contents

01 学類長の挨拶

02 文化学のコスモス

02 自分の好奇心を探究していく！
比較文化学類で
何を学ぶか

04 世界へと開かれた窓

04 語学教育・国際交流・留学
視野を世界へ

06 比文らしく 自分らしく

06 4年間をどう過ごす？
入学から卒業まで
年間スケジュール

08 比文らしく、自分らしく
卒業論文

12 比較文化学類 17 コースへの招待

[地域文化研究領野]

日本・アジア領域

12 日本文学コース

13 日本研究コース

14 中国文学コース

15 アジア研究コース

英米・ヨーロッパ領域

16 英語圏文学・文化コース

17 ドイツ語圏文学・文化コース

18 フランス語圏文学・文化コース

19 欧米研究コース

フィールド文化領域

20 文化人類学コース

21 文化地理学コース

[超域文化研究領野]

表現文化領域

22 テクスト文化学コース

23 文化創造論コース

24 ワンプラネット文学・文化関係学コース

文化科学領域

25 先端文化学コース

26 情報文化学コース

思想文化領域

27 現代思想コース

28 比較宗教コース

30 ここが知りたい！
Q&A

33 学生組織紹介

34 比文生の日

35 卒業後の進路

39 総合選抜で受験し、2年次で比較文化学類に進む



比較文化学類 HP

<http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/>

でも随時、情報を公開しております。

比較文化学類、 創設 50 周年に寄せて

比較文化学類は1975年、新構想の教育組織として発足しました。したがって2025年4月には創設50周年を迎えます。当初、就職の面接では、「ヒカクブンカガクルイって何ですか?」という質問を受けたというくらい、認知度の低い名称でした。ところが今や大学の教育組織に「文化」を掲げていないものはないくらい、学問として定着しています。文化とは人間のある集団が持つ固有の様式であり、それを出発点として目に見えるものとなったのが、絵画、建築、文学、音楽、哲学、宗教・・・であり、政治・経済・教育等、あらゆる社会現象、人間の営みの根源には文化があります。

比較文化学類は当初、第二学群（他に日本語・日本文化学類、人間学類、生物学類、生物資源学類〔旧称、農林学類〕）に属していましたが、2007年の学群再編を経て、人文学類、日本語・日本文化学類と共に人文・文化学群となりました。そして2013年には、学類再編を行い、これまでの3主専攻（文学・地域・思想）16分野から、2領野（地域文化・超域文化）からなる6領域16コース（2020年より、17コース）になりました。これが領域・コースが有機的に相互に絡みあった「比文のコスモス」を構成することとなります。

人間の集団にはそこに共通した当たり前として持っている考え方があり、それが文化を形作っているという話をしました。さて、比較文化学類には固有の文化があります。それは学問領域の枠を超えて自由に、自分の興味・関心をとことん追究できるという学際性です（卒業論文のタイトルをご覧ください）。これが「比文らしく、自分らしく」の意味するところです。「自由」と聞くと、「かえって困るなあ・・・自分のやりたいことだって、よく分からないし・・・」と不安に思う方もいるかもしれません。でも学類のカリキュラムに沿って授業を履修し、段階を踏んでいけば卒業まで到達できるよう、プログラムが組まれていますので、ご安心ください。実際に授業を受けて、「これだ!」と目覚めた学生を何人も知っています。また、比較文化学類と言っても必ず複数の学問基盤がなければならない、というわけではありません。私のようにこれまで、ほぼフランス文学一辺倒で来た人間でも十分通用する所です。つまり比較するしないについても、その人の自由だということです。

比較文化学類は「人間」に興味があり、やる気のある学生をお待ちしています。創設100周年までの、次なる一歩を踏み出すのはあなたです。

比較文化学類長
増尾 弘美



COLLEGE OF COMPARATIVE CULTURE

比較文化学類の特徴

文化学のコスモス

学際
interdisciplinary

→ p.02

世界へと
開かれた窓

国際
international

→ p.04

比文らしく
自分らしく

少人数教育
small-group teaching

→ p.06

自分の好奇心を探求していく！ 比較文化学類で 何を学ぶか

日本・アジア 領域

日本研究 コース	中国文学 コース
日本文学 コース	アジア研究 コース

● 学ぶことができる主な学問分野

文学

日本文学、中国文学、英米文学、ドイツ文学、フランス文学、比較文学、文芸学など

地域研究

日本研究、アジア研究、欧米研究など

応用的な 人文諸 科学

文化地理学、文化人類学、現代思想、比較宗教学など

文化学

文化理論、表象文化学、大衆文化論、芸術文化論、身体文化論、映像文化論、情報文化学など

さらに現代の変化に応じた先進的な諸学問領域

これらを、閉ざされた専門分野の中ではなく、柔軟な組織（6領域と17コース）を通じて学修することが特色です。

英米・ヨーロッパ 領域

欧米研究 コース	ドイツ語圏 文学・文化 コース
フランス語圏 文学・文化 コース	英語圏 文学・文化 コース

文化領域 研究 学際

フィールド文化 領域

文化 地理学 コース	文化 人類学 コース
------------------	------------------

比較文化学類のコスモス 6つの「領域」と17の「コース」

比較文化学類では、次のような教育目的・目標を掲げています。

人類が築いてきた様々な文化を、「現代理性」と「学際性」という視点から捉え直し、それを通じて、グローバル化した社会・文化に関わる、広い視野と柔軟な発想力を備えた人材を育成します。さらに、外国語習得を通じた国際的コミュニケーション能力を高めることに努めます。

この大きな目的・目標を実現するた

めに、比較文化学類のカリキュラムは6つの研究領域に分かれています。さらに、それぞれの領域はコースに分かれており、合計で17のコースが設けられています。

「領域」は、狭い学問分野にとらわれない広い視野をもって、それぞれの学問分野を横断して学修できるように学際的に作られています。「コース」は、3年生になってから皆さんが最終的に所属する基礎単位で、コー

スの教員と一緒に卒業論文を仕上げることになります。

ただ、どこの「領域」／「コース」に属していても、比較文化学類のカリキュラムは、皆さんの関心や興味にそって様々な授業科目が自由に履修できるように作られています。さらに、興味や将来の志望にあった学修をガイドするために履修モデルを用意して、皆さんの学修にふさわしいカリキュラムを作れるようにサポートします。

表現文化 領域

テキスト
文化学
コース

文化
創造論
コース

ワンプラネット文学・
文化関係学
コース

文化科学 領域

先端
文化学
コース

情報
文化学
コース

比較文化
主専攻

比較文化研究
領域

思想文化 領域

現代思想
コース

比較宗教
コース

● 日本・アジア領域

日本とアジアにおける文化の諸相を文学・歴史・宗教・社会などに着目しながら体系的に学ぶ。

→ p.12

● フィールド文化領域

日本・世界における地域文化の多様性をフィールドワークによって明らかにし、人間と場所のかかわりを通して「人間とは何か」を体系的に学ぶ。

→ p.20

● 文化科学領域

生命・身体文化、メディア、ジャーナリズムなどをキーワードに、人間社会の諸問題について複合的な視点から探究する。

→ p.25

● 英米・ヨーロッパ領域

英語圏・ドイツ語圏・フランス語圏に加え、広く欧米の地域文化圏を対象に、文学・言語・歴史・宗教・社会などに着目しながら体系的に学ぶ。

→ p.16

● 表現文化領域

地域の限定を越えた文学や、多様な大衆文化、美術・映像・音楽などの表象文化といった人間の表現文化を広く探求する。

→ p.22

● 思想文化領域

思考・認識・言語・論理・倫理／社会・実践・経験・歴史・フィールドなどをキーワードにして、哲学や宗教を学ぶ。

→ p.27

語学教育・国際交流・留学 視野を世界へ



語学教育

1～3年次の語学学修は選択必修です。1年次では英語のほかに、初修外国語としてドイツ語・フランス語・ロシア語・スペイン語・中国語・韓国語が開講され、2年次以降の専門外国語ではギリシャ語・ラテン語・インド古典語等の授業も受講できます。比較文化学類には英語による授業を担当している外国人教員がいますが、グローバルコミュニケーション教育センターにも多数のネイティブ教員が在籍し、生きた言葉に触れることができます。また他国からの留学生にチューターやティーチング・アシスタントとなって参加してもらう授業など、実験的・先進的な授業も数多く展開されています。

留学

筑波大学は全世界に広がる370以上もの海外協定のネットワークがあり、比較文化学類の学生が利用できるものに限っても、その数は60以上です。

留学には語学力の養成に加えて、費用の問題、現地語での慣れない書類準備など、さまざまなハードルがありますので、準備は早いほうがいいでしょう。本学類の国際交流委員会の教員の他にグローバル・ commons (大学の留学支援組織) が具体的な相談に乗ってくれます。また、実際に留学した先輩方からの体験談などは大いに参考になることでしょう。

本学類が2013年9月よりスタートさせたカナダ・プリンス・エドワード島大学 (UPEI) との交換留学制度は、学類カリキュラムと一体化した形で、半年～1年留学できる、大変ユニークな制度です。同大学では本学類生を中心とした夏期英語研修も行われています。



カナダ プリンス・エドワード島大学
(学類独自の交換留学制度あり)

□□□

比較文化学類では提携校との留学プログラムの紹介のほか、留学生の体験談や必要な手続き、危機管理対応などについて詳しく説明した **留学ハンドブック** を作成しています。留学を希望する学生は必携です。学類ホームページ (<http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/>) からダウンロードして読めるようになっています。

21世紀、世界はますます緊密な結びつきを強めています。

グローバルな時代を生きる力を養成するには、語学力はもちろんのこと、異文化に対する知識、他者を受け入れる心構えなども必要です。そのためには他国のの人々と実際に交流を持ち、自分たちとは異なる思考方法や生活習慣を肌で感じる事が、何よりの近道になります。

比較文化学類では多彩な語学教育をはじめとして、みなさんが世界へと視野を広げるためのさまざまなツールを用意しています。諸外国からの留学生との国際交流プログラムに始まり、世界各国の50以上もの大学との提携関係を通じて、さまざまな期間、さまざまな形での留学のチャンスがあります。相手先によっては単位互換によって休学期間を作ることなく卒業できたり、留学先での追加の授業料を減免されたりするなど、大学・学類も環境の整備に力を入れています。

□□□

プリンス・エドワード島大学 (UPEI) 夏期英語研修



2014年度より夏休み中の3週間、学生をカナダ東部のプリンス・エドワード島大学 (UPEI) に送り出して、英語と異文化を学ぶ研修を開催しています。



プリンス・エドワード島はココ!

Q. どんなプログラム?

派遣先のカナダは世界有数の多民族国家です。『赤毛のアン』の舞台となったプリンス・エドワード島も、街並みに英国的伝統を残す一方、世界各国からの留学生が集まり、グローバルな空気が満ち溢れています。そんな空間で、参加生は3週間ほぼ毎日3時間以上、英語と文化や社会の授業を受けます。2023年度は33名が参加しました。

Q. 宿泊先は?

キャンパス内にあるレジデンスに宿泊、あるいはホームステイをします。1家庭につき日本人1名ですが、場合によっては外国人留学生がいっしょになることもあります。

Q. 単位は?

「比較文化国際研修Ⅰ,Ⅱ」という授業として開講しているので、研修修了生には3単位が付与されます。



◀ 2014年度参加生砂子千尋さん(参加時2年生)とホストファミリー。週末には色々なところへ連れ出してくれたそうです。

参加生の声

- 行くまでは英語で話すことや聞くことが怖かったけれど、研修から戻った今は、英語を楽しんでいる!
- 課外活動も全部楽しかった
- カナダの人々はとても親切

- プリンス・エドワード島は治安が良いので、安心して過ごせた
- ホームステイがとてもよかった
- 同じホームステイ先の韓国人と仲良くなったこともとても良い異文化交流だった

※ 旅費等の実費は基本的に参加者の負担となりますが、海外留学支援事業「はばたけ! 筑大生」など、大学からの支援金制度があります。
※ 留学や英語研修などの制度については、筑波大学および提携校の事情により予告なく変更されることがあります。

国際交流

他国の文化を肌で感じ、また留学生に自国を紹介したい——学生たちのこうした思いや取り組みを、学類も随時応援しています。

2015年度から、大学の支援 (TA・TFを活用した主体的学修を促す教育推進事業) を受け、多言語・異文化の学習環境づくりに取り組みました。英語、ドイツ語、ロシア語の語学の授業や、テキスト文化学、中東・中央アジア文化研究などの専門科目に、留学生をティーチング・アシスタントとして積極的に採用し、受講生の語学力の向上や文化交流を行いました。笠間市観光協会の協力で、留学生も参加する日本文化体験学習を実施したこともあります。オハイオ州立大学比較研究学部との教育交流では、オハイオ州立大学の15名の学生さんたちが、2019年5月に2週間学生寮に滞在し、日本のポピュラーカルチャーに関する研修を行い、本学類生と交流を行いました。



文化学
の
コスモス

世界へと
開かれた窓

比
文
ら
し
く
自
分
ら
し
く
少
人
数
教
育

4年間をどう過ごす？

入学から卒業まで 年間スケジュール



入学

1年次

2年次

基礎科目・比較文化研究・概論

専門導入基礎演習・専門外国語

カリキュラム▶▶▶

初修外国語は、
独・仏・露・西・
中・韓の6語種
から選べます。

全学で開講されている科目から、それぞれの

卒論▶▶▶

テーマを見つける

11月：研究計画案提出 ▼

進路▶▶▶

関心・適性を見極める

各種試験が必要な
職種は早めの準備
を。教職志望は授
業もしっかり。

留学▶▶▶

世界中に広がる



年間スケジュール

学期の区分 (2学期6モジュール制)

- ※1つのモジュールは、5週の授業日数を確保
- ◇春学期 A・B・Cの3モジュール
- ◇秋学期 A・B・Cの3モジュール
- ※日付は2024年度。

大学説明会



夏季休業 (8/10 ~ 9/30)

4月

April

5月

May

6月

June

7月

July

8月

August

9月

September

春学期開始 (4/1)

入学式 (4/5)

春学期授業開始 (4/15)

春季スポーツデー (5月中旬)

やどかり祭 (5月末)

入学式



大学説明会 (8月)

秋学期入学式 (9/30)

やどかり祭



比較文化学類の最大の特徴は、豊富な教授陣の提供する多彩な授業の数々。1年生のための比較文化研究に始まり、300近い専門科目、ネイティブ教員や留学生が活躍する外国語の授業など、魅力的な科目が多数設置されています。しかも専門科目の多くは20人以下という、ぜいたくな少人数体制を敷いているのです。

どういう授業に参加するかは、あなたが決めます。多くの選択肢を前に、迷ってしまっても大丈夫。年度初めには教員や学生たちによるきめ細やかなカリキュラム・ガイダンスや履修相談会が開かれています。

サークルやバイトもあなたの大学生活を豊かに彩ってくれるはず。初めて一人暮らしをする人も多いでしょう。生活スタイルを早くつかみ、充実したキャンパスライフを送ってください。



卒業

3 年次

4 年次

専門外国語

卒業論文
卒業論文演習

専門科目 卒業論文基礎演習

領域・コースごとに設定された
300 科目近くに及ぶ各種授業

必要、興味関心に応じて受講（自由科目）

専門的な内容を、
少人数授業で
しっかり学べる。

合計
124単位を
取得

11月：テーマおよび指導教員決定

6月：仮題目決定

10月：題目最終提出

12月：論文提出

テーマを膨らませる

テーマを構成する

卒論を書く

就職／進学 それぞれにあった準備

就職サポートも
充実！
(p.38へ)

50以上の協定校

留学で視野を
広げよう！
(p.04へ)

冬季休業 (12/26 ~ 1/5)

春季休業 (2/18 ~ 3/31)

10月
October

11月
November

12月
December

1月
January

2月
February

3月
March

秋学期授業開始 (10/1)

雙峰祭 (11月上旬)
秋季スポーツデー (11月中旬)

卒業式 (3/25)

卒業式



卒業論文

比文らしく、
自分らしく。



少人数教育の 総決算

2年次には専門導入基礎演習を受講し、主な関心を明確にする「研究計画案」を提出します。学生は自分のテーマにもっとも近い教員を探し、主指導教員として指導を受けることになります。これにより研究の最初の、大まかな方向付けがなされます。

3年次になると主指導教員のほかに、副指導教員を決め、卒業論文基礎演習を受講し、よりテーマを具体化した「卒業論文計画書」を作成します。ここでは、タイトルだけではなく関連文献や、テーマに沿った大まかな資料収集・調査方法なども考えます。

テーマを
膨らませる

時期の目安
2～3年次

テーマを
探す

所属する領域は
どこ？

時期の目安
1～2年次

入学し新生活に慣れるための各種オリエンテーションを終えると、カリキュラム作りが始まります。6つの領域のなかから、自分が学んでみたいのはどの領域なのかを決め、それを柱にして受講する授業を決めていきます。授業を受け、レポートを作成することなどを通じ、自分なりの関心を具体化させていきます。

どんな
研究がしたい？

先輩たちの 卒業論文 体験記



筆者によるフランシス・ベーコン「ある磔刑の基部にいる人物像のための三習作」(1944年)の模写(一部)

私は「フランシス・ベーコン「磔刑」作品における崩壊した肉体イメージ」という題目で卒業論文を執筆しました。20世紀後半に活躍したイギリスの画家フランシス・ベーコンの「磔刑」を主題とした絵画シリーズについて、本作品群に描かれた生物像が辿る肉体内部が次第に暴かれていく過程と、一体性を失った肉体のイメージに焦点を当てながら論じました。特に、描かれた生物像の「崩壊した皮膚」について新しく着目することにより、従来の先行研究とは異なる解釈を与えることができたように思います。

ベーコンの描いた「皮膚」について分析するに当たって、美術史、身体論、宗教学など様々な領域を横断しました。こうした領域に囚われないアプローチの開拓力は、比較文化学類の学際的な環境と、日々の開放的な授業の中で育成することができたように思います。自分の一番好きなものや興味のあるものについて、独自のアプローチを構築していくということは、比較文化学類の学びの中でしか得られない喜びだと思っています。

文化科学領域 先端文化学コース 2023年卒業

高橋茉佑さん

比較文化学類は「何を学ぶのが分かりにくい」とよく言われます。しかしそれは裏を返せば、「どんなテーマにも対応できる」ということなのです。

現代社会は高度に複雑化しており、特定の領域の知見だけでは問題解決に至る道のりを十分に描けないこともあります。比較文化学類では、各学年定員80人の学生に対して、6領域17コースの約50名のバラエティに富む教員たちが対応しています。その指導は、マンツーマンを主とした徹底した少人数教育。複合的な知の鍛錬による問題設定と解決のスキルを身に付けるには、最高の場と言えるでしょう。

こうして養われる力こそ、複雑化し多様化する現代社会において、普遍的に必要とされる能力なのです。卒業論文作成のプロセスは、入学して最初のカリキュラムを組む時点から始まっています。日々の学習を通じて、あるいは大学生活全般を通じて、見聞し体験した事柄の中から、あなたならではのユニークなテーマを探してください。それを教員や学友にぶつけてみてください。刺激的な議論の中から、「論文」にしたい何かが、次第に育っていきはらずです。

どんな論文を書こうか？

テーマを絞りこみ構成する

時期の目安
3年次後半～
4年次夏休み

4年次の6月には仮題目を提出します。これまで積み上げてきた調査・研究や議論から、あなたのテーマは大きく膨らんでいるはず。論文を書くとは問題意識を明確化し、それを説得力のある形で論理的に構成すること。ここではいよいよ、論文作成を念頭にテーマを絞り、それを軸に議論を取捨選択し肉付けしていきます。

お疲れさま！

審査を受ける

時期の目安
4年次1月

論文提出後はコースごとに行われる公開審査に備えます。審査の場では主指導・副指導教員から専門的なコメントが伝えられます。考えることは、大学で終わるわけではありません。卒業してからも、「自分だけのテーマ」を深めていってください。

提出

時期の目安
4年次12月後半

ひたすら執筆の
がんばれ！

論文を書く

時期の目安
4年次夏休み～
12月

夏休みが明けると、中間発表会がコースごとに行われます。指導教員・コース教員・友人や後輩たちの前で自分のテーマと章立てなどについて発表します。そこでさまざまなコメントやアドバイスをもらい、題目を決定し、論文執筆の最終段階へと向かいます。下書きは逐次、論文の書式などについても指導教員から具体的な指導を受けます。

先輩たちの 卒業論文 体験記



私は「夏目漱石『永日小品』研究—同時代の心理学を視座として—」という題目で卒業論文を提出しました。『永日小品』（明治42年）を、主に元良勇次郎やヴィルヘルム・ヴントを主軸とした明治期当時の心理学の文脈に置きながら考察するといった内容です。しかし如何せん、明治期の心理学はおろか現代の心理学すら学んだことがありませんでしたので、資料を渉猟しひたすら独学で勉強するしかありませんでした。心理学書を地道に読み解きながら、「小品」ジャンルの独自性と作中の心理学的特徴を科学的に分析してゆく中で、従来の先行研究とは異なる方向性を見出せたように思います。未知の分野を開拓してゆく知的興奮は研究の中でこそ得られるものです。全て手探りで進めていった研究でしたが、他分野の資料を批判的に精読する力を涵養できたと思いますし、それは教育学研究に転向した現在でも生きています。

先生方・卒業生一同、比較文化学類での学びを通して、自身の問題意識が人類の「文化」という営みの中でどのような位置付けにあるのか、不断の考究を続けていってくださることを心より願っています。

日本・アジア領域 日本文学コース 2022年卒業

ブラッドリー桜ミシエルさん

日本・アジア領域

令和5年度卒業論文タイトル一覧

新美南吉童話研究

児童文学における変身と成長
—与謝野晶子『八つの夜』を中心に—

上田秋成「吉備津の釜」における姉妹の復讐について

中古の「もの」観 —『源氏物語』夕顔巻を中心に—

『枕草子』における女性観

日本人の読書 —中古文学における読書描写の比較検討から—

三島由紀夫『豊饒の海』論

鳥取県立鳥取高等女学校生徒からみた「満洲」

戦時期における教育紙芝居の展開
—戦争関連作品の戦闘描写を中心に—

兵隊木像の成立と地域社会 —静岡県藤枝市の常昌院を事例に—

近代における西洋食文化受容についての—考察
—ウスターソースの普及を例として—

現代中国における武則天のメディア表象

女性のキャリア選択の日台比較研究

英米・ヨーロッパ領域



フィールド文化領域

令和5年度卒業論文タイトル一覧

小売市場における多様な「つながり」
—北九州市旦過市場の今までとこれから—

学校的価値と「つきあっていく」営み —地域学習支援の実践から—

現代における朝鮮学校とそれを取り巻く社会の関係性について
—埼玉朝鮮初中級学校の対外開放事例をもとに考える—

アロマンティック/アセクシュアル・スペクトラムが集うということ

旧ソ連圏出身の大学、大学院留学生の来日理由と人生設計
—筑波大学を中心に—

子どもの居場所の役割と獲得について
—A市における無料学習会B教室での体験をもとに—

おぶせまじゅう図書館の現在と人々の思い

大地の芸術祭が地域づくりにもたらす効果と今後の展望
—新潟県津南町三箇地区を事例に—

沖縄県における若者の成長とアイデンティティの関係性
—まなざしの中の“自己表現”—

生活の場としての世界遺産 —福岡県宗像市大島の「いま」に注目して—

庭園の風景と自然観 —桂離宮庭園を例として—

就農支援行為に対する認識が及ぼす制度への作用
—大分県竹田市の事例を踏まえて—

土浦市穴塚における里山保全活動の持続要因と課題
—参加意識と関係性に着目して—

習志野市および近郊に居住する外国人の生活環境

大都市近郊部における自転車通勤の傾向と利用要因
—埼玉県さいたま市に注目して—

商業捕鯨再開後における鯨肉消費振興 —山口県下関市を中心に—

茨城アストロプラネッツの活動から見たスポーツチームによる地域貢献

長野県山ノ内町渋温泉の観光課題と展望

農村地域における太陽光発電事業をめぐる合意形成について
—長野県佐久市を事例に—

群馬県前橋市における公共交通網の再編と整備

表現文化領域

令和5年度卒業論文タイトル一覧

矢沢あい作品におけるファッション表象の変化とその意義
少女漫画雑誌における子どもとおしゃれ文化
ー2010年前後の『ちゃお』を中心にー

安部公房「ブルトンのわな」における大衆と噂
アブリマンガの今後の展望 ータイザン5作品を中心にー

The Story of Doctor Dolittle の日米における人種差別表現の変遷とその受容
少女マンガにおける両性具有 ～『薔薇王の葬列』リチャード三世を中心にー

原作漫画と翻案作品との間に見られる関係性について
ー『ジョジョの奇妙な冒険』を中心にー

ファンタジー世界における学校空間の分析
ー『ハリー・ポッター』シリーズを中心にー

自然描写がアン・シリーズに与える効果
女性向け男性キャラクター育成ゲームにおける女性主人公の役割分析
ディズニー・プリンセス作品とマーベル作品におけるヴィランとしての親表象
中国産オンラインゲーム『原神』にみられる日本文化表象の特徴
『桜蘭高校ホスト部』における「男装少女」のジェンダー表象
ディズニープリンセス映画における女性の幸せと美の表象の変化
アルペール・カミュ『ペスト』における対話と連帯

清水玲子『秘密』における家族表象
漫画作品に描かれる子供による暴力 ー松本大洋作品を中心にー

綿矢りさ作品における「女性」表象
ー日本のポストフェミニズムの状況をふまえてー

現代文学作品に見る美容整形の実践
八目迷「時と四季」シリーズの分析に基づくセカイ系の展開の考察
テレビドラマ『silent』に見る聴覚障害表象の在り方
幻想世界の「言葉」が生じさせる権力関係 ー山尾悠子作品の分析を通じて
江戸川乱歩初期作品の技巧と読者 ー「本格物」から「怪奇幻想小説」へー

ポストコロナリズムとフェミニズムが出会う場所
ーShirley Geok-lin Lim, *Joss and Gold* 論ー

BL実写映像化に際しての諸問題
ボーカロイドコミュニティの特徴：クリエイター、ファンダム、企業との関係から
チベット歌舞劇アチェ・ラモの分析
煮ても焼いても食えないもの ～谷川俊太郎「沈黙の十年」以後の表現研究ー

アジア人差別とその表象
発達障害のインクルージョンにテクノロジーは何をもたらすか
坂元裕二脚本作品とメディアの関係と変遷

文化科学領域

令和5年度卒業論文タイトル一覧

ロンシャン礼拝堂と〈音響的形態〉
大学生のYouTube 接触時間と不安
女性議員の政治参画障壁とネット炎上
「ワーキングマザー」はどう語られてきたか
ー出版メディアを中心にー

変化するデジタルメディア環境における大学生のコンテンツ消費行動
サバイバルオーディション番組における視聴者の投票行動を決定する要因 ～『PRODUCE 101 JAPAN』を事例にー

「炎上」事件に関するコンテンツの検索・視聴行為が及ぼす影響について ースシロー迷惑行為炎上事件を例にー

映画キャッチコピーの広告的機能
日本社会における「プロゲーマー」の受容
1970年代以降の日本における男性の美容行動の変遷
ー男性雑誌の広告を中心としてー

思想文化領域

令和5年度卒業論文タイトル一覧

有償で遊ぶ

近代以降の梵字悉曇をめぐる一考察

パワースポットと地域の観光資源の関係についての研究
ー筑波山の観光資源の再発見を目的としてー

アメリカと日本におけるマインドフルネスの大衆化

私の卒業論文

思えば卒論を書く前に色々なレポートを書きました。『遠野物語』から「音」の描写を拾い集めて論じたり、オペラ「カルメン」の原作を読んでジェンダー論のレポートを書いたり、私は学生オケで弦楽器を弾いていたので、演奏の身体動作を文化人類学のレポートの題材にしたこともあります。当時すでに囁かれていた「比文迷子」の言葉の通り、色々な先生方の授業を渡り歩いて、あるかないかも分からない「自分が本当に知りたいこと」を探していたのだと思います。結局私は、「先生の勧めで伊豆諸島に出かけ、姿形が見えず音でしか知覚されない島の来訪神にまつわる行事について、民俗学の先行研究を検討し、文化地理学の議論を参考に、文化人類学の研究として、「信仰の経験と場所ー伊豆諸島神津島における神・仏・死者」という比較宗教めいた題目の卒論を書きました。比文らしく混淆的。

私はその後も前向きに「迷子」を続けているつもりなのですが、振り返ってみると、右往左往のせいで幅広になった「迷子」なりの一本道を歩いてきたのだとも思います。これからどこに向かうのかは今でもまだ分かりません。そんな私にとって、比文での日々のレポートや卒論は、「自分が本当に知りたいこと」という、おそらく実態のない、なのに望ましく思われた何かに向けて、自分で歩いていく前向きな「迷子」が時々振り返って今いる場所を確かめるための、自分で石を埋めた里程標のようなものです。みなさんにも、4年間、もしかするとその後もずっと、おおいに迷って彷徨って、自分で自分の道を広々としたものにしてもらえると嬉しいです。

佐本英規先生（2004年比文入学）

日本・アジア領域

日本文学コース



住吉物語絵巻（下巻）
筑波大学附属図書館所蔵
筑波大学の図書館には、たくさ
んの貴重な古典籍が所蔵されて
います。この絵巻は、継子物の
代表的な物語である住吉物語に
美しい極彩色の絵が添えられた
ものです。

日本文化を支え続ける日本文学の魅力

日本文学は優に千年を超える長い歴史を持ち、それは世界の文学のなかでも大変稀有なものといわれています。なぜそれほどまでに我々は文学を大事にし、必要とし、魅了されてきたのでしょうか。こうした問いかけは、人がことばや物語とともに生きることの根源に触れる貴重な機会を与えてくれるはずです。

日本文学コースでは、さまざまな時代のさまざまなジャンルの作家や作品について研究することができます。まず概論や文学史で専門基礎知識を養います。続いて講読や特講では、具体的な作品をとりあげ、精読を行うための態度や方法を身につけます。演習では、受講生自身が文学研究を実践し、卒業論文へとつなげていきます。日本文学の魅力は歴史性・現代性のバランスの中で新たに発見され続けるものでもあります。本コースはそれを次世代へとつなげる総合的な人文力の養成を目指しています。

Point

筑波大学の図書館には古典から近代の貴重な書籍があり、それらを使った授業もあります。たとえば実際に和綴りの本を手にとったり、変体仮名と呼ばれる特殊な文字を習得したりすることができます。文学館や美術館などで目にするくずし字が読めるようになるのです。

卒業論文作成では、自分自身で作家や作品を選び、研究テーマを見つけ、課題を発見していきます。これはとてもやりがいがあるもので、好奇心旺盛な人も、ストイックな人も、それぞれの立場から文学を学ぶ喜びを味わえると思います。



茂野 智大
[日本上代文学、萬葉享受史学]

日本現存最古の歌集、『萬葉集』を研究しています。『萬葉集』には現代の私たちにとって「わかりみが深い」歌もあれば、まるで共感できない歌もあります。感動する歌もあれば、笑える歌もあります。こういうものだと決めてかかるのではなく、一緒に柔軟な姿勢で作品に向き合っていきましょう。



馬場 美佳
[日本近代文学、日本現代文学]

「Curiosity killed the cat（好奇心は猫をも殺す）」というイギリスの諺がありますが、「知的好奇心」ならば、比文の教員も学生も猫どころではないかもしれず… みなさんもぜひ、猫をかぶらず好奇心を発揮しにきてください。



吉森 佳奈子
[日本文学史、日本中古文学]

『源氏物語』について、この物語が、後の時代の人々にどのように受けとめられていたかということを中心に研究しています。と一緒に人生棒にふってくださる方、大募集中です（イラストは、はじめて教えた学生が描いてくれたもので、わたしの宝ものです）。

PROFESSOR

日本とアジアにおける文化の諸相を文学・歴史・宗教・社会などに
着目しながら体系的に学ぶ。



日本研究コース



京都・祇園祭を見学する



神社の石造物を調査する

日本列島の生活・文化と政治・社会を具体的な事例から見つめ直す

日本研究コースは、日本列島に暮らす人びとの生活・文化と政治・社会を研究対象とするコースです。具体的には、個別的な地域で実際に暮らす人びとの歴史・生活・政治・宗教・思想・教育・芸術などのさまざまな事例を、鳥の目で考察するのではなく、各自の関心や問題意識にもとづき蟻やトンボの目で考察します。これらの考察を通じ、地域に生きる人びとの生活・文化・政治・社会の総体を、相互に比較しながら広い視野で多元的、複眼的に捉え明らかにしていきます。このような日本研究の学びは、国際的・民族的に流動的な現代社会において生じている諸問題に対し、柔軟な判断力をもって対応し解決する確かな社会力を有する、グローバルな人材の育成へとつながります。

Point

日本研究コースでは、基礎的な知識や方法論を学ぶ講義のみならず、個別具体的な地域の生活・政治・宗教・思想を題材とする講義・演習と、日本列島に展開した農山漁村・都市の日常生活の場から、地域に根ざした諸問題を発見し研究する実験実習(フィールドワーク)が開講されます。とくに、重視するのは演習と実習で、学生自らが主体的に調査し、考えて発表し、互いに真剣に議論しあいながら、各自の卒業研究に向けて、独創的な視点や研究方法を磨いていきます。



石塚 修

日本の文学と食文化との関係について、茶や納豆などを中心に研究しています。「難しいことを易しく、易しいことを深く、深いことをおもしろく」(井上ひさし)、そのような授業や研究を目指しています。



山澤 学

出身地栃木県日光をはじめ列島の各地を歩き、人間と社会の歴史(とくに江戸時代史)を宗教・信仰の世界から研究しています。最近は山形の出羽三山、京都の北野天満宮などの研究をまとめています。



長尾 宗典

主に日本近代(明治以後)の美術・文学・宗教をめぐる評論を思想史の視点から研究しています。また明治時代の同人誌や、出版流通史、図書館の歴史を素材に、活字文化が地域や社会に広まるプロセスも研究しています。

PROFESSOR

日本・アジア領域

中国文学コース



絶世の美女楊貴妃と玄宗皇帝との悲恋を情緒豊かに表現した白楽天「長恨歌」の冒頭。江戸時代に日本で出版された本で、墨で返り点や送り仮名がつけてある。高校で習う規則と少し違う。筑波大学図書館蔵。

よりよく生きる為の糧として古典作品を味読します。

中国文学の魅力は、懐の深さにあります。中国古典文学全体でいえば、人間が生きていく中で生じることについてはほとんどすべて誰かがどこかで作品にしていますから、考えるための題材が豊富です。一篇一篇についていえば、その作品ができるまでの文化をまとっているのが普通ですから、様々な深度での解釈が可能で、使われる言葉も一筋縄ではいきません。有名な杜甫の「春望」にある「三月」という2文字をどう捉えるか、「三ヶ月」なのか「陰暦三月」なのか、その違いだけでも、詩全体のニュアンスが変わってきます。当コースでは、作品の面白さにじかに触れて言葉に対する感性を磨き、人間に対する理解を深め、よりよく生きる道を模索していきます。

Point

まず、中国文学概論を受講して中国古典文学を学んでいくための基礎的な知識や技術を習得します。次に、講読や文学史で本格的に中国文学の世界に入っていきます。更に、演習で中国古典文学の専門性を高めます。この間、中国文学講読演習や、CEGLOC開設の中国語基礎のほか、日本・アジア領域の他コース・思想文化領域など他領域の科目などを必要に応じて受講します。最終的には、持てる力を総動員して卒業論文を完成させます。



稀代 麻也子
[六朝文学]

私の専門分野は、文系科目に興味無し！な人に説明するのは難しいのですが、日本で教育を受けてきた人には、「漢文だよ。時代的には『三国志』と唐詩の間。」と言うと通りはいいです。色々無視した説明ですが…。

PROFESSOR

アジア研究コース



台北北郊七股の王爺廟（代天府）



ネパールでの祭り（フィールドワークより）

アジア諸地域の文化、民族、宗教、政治、社会等について学び、考えます。

アジアはユーラシア大陸において、広大な面積、長い歴史、多様な民族と文化を有する多面的な地域であり、私たちが暮らす日本もその一角をなします。21世紀に入り、日本と他のアジア諸国との交流はこれまで以上に活発になっています。そこでは、人々の生活、歴史、価値観などのアジアの多様な現実を理解したうえで、共存していくことが不可欠です。アジア研究コースでは、中国、台湾、韓国、東南アジア、南アジア、チベットなどを主な対象とし、歴史的あるいは現代的な視点からアジアを把握し、諸問題を分析できる力を養うことを目指します。

Point

アジア研究コースでは、多様なテーマで講義や演習を開設し、学際的なアジア理解を目指しています。基礎になるアジア地域の言語（漢文、現代中国語、インド古典語、チベット語、韓国語）を用いた資料の解説にも力を入れています。また、英語の文献も多く用います。旅行、留学、調査などのために現地を訪れ、自分の問題意識を形成する学生が多く、卒業論文も個性に富んだものとなっています。



山本 真

中国近現代史、とりわけ近代国家建設と社会変容に関する政治史、社会経済史の諸テーマ（具体的には政党研究、地域エリート研究、村落構造研究、社会組織研究）に取り組んでいます。毎年中華圏各地の図書館、公文書館に出かけ資料を閲覧しています。また農村調査にも参加し、多面的な視角から研究を行うことを心懸けています。



横山 剛

インド仏教の研究をしています。サンスクリットなどで記された文献の読解を通じて、仏教の教理がインドにおいていかに展開したのか、またその後アジア各地にどのように伝播したのかという点を研究しています。仏教を含めたアジアの歴史、文化、宗教という窓から、今日の日本に生きる私たちの生活、言葉、考え方、直面する問題などを見つめてみましょう。世界は少し違って見えるかもしれません。何か素敵な発見をしたら、ぜひ私にも教えてください。

英米・ヨーロッパ領域

英語圏文学・文化コース

〈読み解く〉面白さと楽しさ

充実した英語力を養いつつ、英語圏の文学と文化についての理解を深めます。伝統的な英米文学研究とともに、文学理論・文化理論を踏まえて、小説・詩のみならず、映画、テレビドラマ、音楽、舞台芸術なども幅広く研究することができます。また、「アメリカ文学履修モデル」「イギリス文学履修モデル」「カルチュラル・スタディーズ履修モデル」「TOEFL550 (iBT79)履修モデル」を示し、学生ひとりひとりの目標に合わせた、しかも体系的な履修計画をたてることのできるよう、配慮されています。確かな英語コミュニケーション能力と、英語を通じて異文化を深く理解する姿勢を身につけ、提携校への留学も視野に入れながら、学習計画を立ててください。

Point

1・2年次対象の「文学論」および「研究」で基礎をつくり、2・3年次対象の「特講」で視野を広げ、3・4年次対象の「演習」では自分の研究テーマに合った授業を選択しましょう。また、高度な英語運用能力を養うための授業では、世界各国の大学院留学生がティーチング・アシスタントとして授業を補助する少人数レッスンがあります。コースの授業で英語圏の文化への理解を深めつつ、それに裏付けられた本物の英語コミュニケーション能力を養ってください。



竹谷 悦子

[アメリカ文学・文化研究、ジェンダー研究]

アメリカ文学・文化、ジェンダー研究のほか、カナダのプリンス・エドワード島大学英語研修を担当しています。授業では、講義に続いて外国人留学生の大学院生 TA を交えた英語のグループ・ディスカッションも行います。



阿部 幸大

[日米文化史]

日本とアメリカの文化と戦争について研究しています。授業では専門内容のほか、卒論執筆を見据えたアカデミック・スキルの基礎を教えます。

イラスト：横井三歩（渉）（比文 2003 年卒）



Tsung-Han Tsai (ツァイツォンハン)

[Twentieth-Century English Literature; Literature and Music]

A literary critic by training, I research the relationship between music and literature in the twentieth century, focusing particularly on music's intersection with political discourse about national and racial identity. I am author of *E. M. Forster and Music* (Cambridge, 2021).

PROFESSOR

英語圏・ドイツ語圏・フランス語圏に加え、広く欧米の地域文化圏を対象に、文学・言語・歴史・宗教・社会などに着目しながら体系的に学ぶ。



ドイツ語圏文学・文化コース



ゲーテ・シラー像（ワイマール）



ブランデンブルク門（ベルリン）

親しみやすい西欧、それはドイツ

21世紀に入ってドイツはますます存在感を増しています。文化の領域でも新しい発信が相次いでいます。ドイツ語はヨーロッパで最大の話者数を持つ言語で、学習者の数も増えてきました。さまざまな政治的課題がクローズアップされることが多いドイツですが、実はドイツの社会は日本とよく似た親しみやすい社会です。とりえず飛び込んで行くには最適な異文化社会です。むしろドイツ語を通じて西欧の重厚な知的世界に入っていくこともできます。ここには文学、哲学、音楽、美術、演劇、舞踊などの、皆さんのよく知っている人類の共通財産が数多くあります。ドイツ語を学び、ドイツに親しむことは、ヨーロッパの正面玄関を通ることと他なりません。このコースでドイツを学び、ドイツを体験し、豊かな人生を送る基礎を作りましょう。

Point

1・2年次対象の「概論」の授業でドイツ語圏文学・文化の全体像をつかみ、2～4年次対象の「演習」で専門的な研究を深めてください。ドイツ語力を高めるための「専門ドイツ語」も開講されます。またベルリン、ケルン、ボン、ポーフム、デュッセルドルフ、ハレ、パイロイトなど、数多くのドイツ語圏の大学への交換留学のチャンスがあります。



茅野 大樹

[近現代ドイツ思想・文学・美学]

20世紀ドイツの批評家ヴァルター・ベンヤミンを中心として、18～20世紀のドイツ思想を研究しています。授業では、ドイツ語圏の文学や文化に広く関わる古典テキストを読解します。



相馬 尚之

[ドイツ文学・科学史]

近現代ドイツ文化について、自然科学とりわけ生物学との関係から研究しています。学際的視点から、未踏の領域を切り拓いていきましょう。

PROFESSOR

英米・ヨーロッパ領域



フランス語圏文学・文化コース



アニセ・シャルル・ガブリエル・ルモニエ作
『1755年のジョフラン夫人のサロン』(1812年)

仏語の文学作品や文献を読み、視野を広げる。

このコースではフランス語で書かれた小説・詩・批評・戯曲などの文献を幅広くあつかえます。フランス文化が分からないとヨーロッパ文化が分からない、と言われているのはなぜでしょう。

フランスはルネサンス期に古代ギリシア・ローマの古典文化を受容し、その人文主義 (humanisme) の礎を築きました。この礎を受け継ぎながら、17世紀にはアカデミー・フランセーズが創設され、国家をあげてフランス語の辞書が編纂されました。フランス語を主柱の一つとする文化は、かつて古典作家たちも探求した普遍性との関わりの中で形成されてきたと言えるでしょう。ルイ14世の絶対王政の時代に古典主義の傑作が続々と生まれ、17世紀は「偉大なる世紀」とも呼ばれています。続く18世紀では、哲学者デイドロが主幹をつとめた『百科全書』に代表されるように、既存の価値観を問いに付す議論が活発に行われ、博物学、化学あるいは政治学などのあらゆる学問分野で言葉の革命が起こりました。この言葉の革命は、やがてあのフランス革命へとつながり、フランスの国制を根本から変えることとなります。フランスはまた先住民族であるケルト人の文化を受け継ぎ、新しいところでは旧植民地のクレオール文化が生まれました。このような多様性に、フランス語、人文主義、共和国の理念という柱がある種のみとまりを与えています。

フランスは私たちの生活と深いところでつながっています。そのフランスに、フランス語を通して触れてみませんか。

Point

まずは1・2年次対象の「フランス語圏文学・文化概論I」でフランス文学史の全容をつかみ、2年次以降は「フランス語圏文学・文化講読I～IV」の授業で、実際に様々な作品や文献と対決しながら考察を深めていきます。留学に関しては、短期のフランス語語学研修のほか、本学の協定校であるフランシュコンテ大学、ポルドー大学、モンリオール大学などに長期留学する例が数多く見られます。



飯田 賢穂

[近代西洋政治思想史、特にジャン＝ジャック・ルソー]

私の主要研究対象はジャン＝ジャック・ルソーの政治思想です。特に彼の主著の一つである『社会契約論』が書かれたプロセスを、関係する自筆原稿群を分析することで明らかにしようとしています。この執筆プロセスをWeb上に再現する計画で研究を進めていますが、電子機器全般の操作が苦手で、なかなか思うに任せません。というわけで、18世紀のフランス文学・哲学に興味をお持ちで、さらにxml、html、css等々に強い方、ぜひお声がけください。三拝九拝。

PROFESSOR

欧米研究コース

欧米文化をその歴史的背景から深く理解する。

欧米の文化は、現代世界の基盤であり、近代日本のモデルともなってきました。しかしそれは単純一律なグローバル基準ではなく、多様な文化伝承、多様な歴史、それぞれの利害をもつ国の集合です。欧米研究コースには、地中海を巡る古代/中世の文化圏、大航海時代に世界中に拡大したスペイン文化圏、ヨーロッパの東からアジアに到達したロシア文化圏、太平洋を巡って広がった英米文化圏、また近現代欧米の芸術文化などを専門とする教員が所属しており、大きな歴史的発展を動的に考えようとしています。それは、現代における経済面その他の急速な変化を理解することにもつながっています。

Point

歴史上世界を動かしてきた数々の帝国とその文明圏について、各教員が欧米文化論、欧米文化論演習などを開設しており、興味のある地域や文化について毎年続けて受講することができます。各教員は語学教育も担当しており、勉強/研究に十分な語学力を身につけることも重視しています。留学や語学研修も支援します。また社会・地理歴史科及び英語科に対応する教職科目がおかれています。



加藤 百合

専門は比較文学で、日本の明治時代から日本の文学青年がどのようにどんなかたちでロシア文学を読んできたのか、翻訳受容の問題などを考えています。ロシア文学、そもそもロシア語が大好きです。欧米研究コースではスラヴ・ロシアの文化と歴史について授業しています。いっしょにロシア語のテキストを読みロシア文化の話をする方を待っています。



宮崎 和夫

グローバル化の先駆けともいわれる大航海時代のスペイン帝国支配下で、搾取や抑圧が強化され異文化衝突が頻発する中で、時代の流れに不満を抱いたり、無関係に生きていた人々に興味を持っています。



佐藤 千登勢

アメリカ合衆国の現代史、特に1930年代と1940年代の社会経済史を専門にしています。人種やエスニシティ、ジェンダーなど、さまざまな観点からアメリカ社会を見ると、思いもよらない新しい発見が必ずあります。



馬籠 清子

Musico-Literary Studies と呼ばれる欧米の音楽と文学の関係性について研究しています。特に、古代以来の各種伝統の上に花開いたモダニズム期の欧米文化・芸術の特徴と、その後の世界への影響に興味をもっています。



津田 博司

イギリスおよび旧イギリス植民地の歴史を研究しています。イギリス帝国やコモンウェルスと呼ばれてきた地域のうち、オーストラリアとカナダにおいて、帝国主義や多文化主義がたどった歴史を主な対象としています。



秋山 学

専門は古典古代学です。元来ギリシア語・ラテン語学を専攻し、本学類でもこれら古典語を教えています。扱う対象は密教（インド古典語）や旧約聖書（ヘブライ語）に及ぶので、それらも含めて研究領域にしています。

フィールド文化領域



文化人類学コース

社会の中で人間はどう生きているのか、過去との繋がりの中で何を受け継ぎ生かしているのか、何を未来に渡そうとしているのか、現場から学ぶ。

文化人類学コースは「人間とは何か」を考えるコースです、と言っても漠然としすぎているかもしれません。「人間とは何か」はいろいろな切り口が可能な問いですが、このコースでは、自らの関心にもとづいて「フィールド」に飛び込み、そこで生きる人々と関わりあい、彼・彼女らの生き方やものの見方を理解することを通じて、あるいは過去から受け継がれてきた様々な文献を「フィールド」として、この問いに立ち向かいます。人はつねに、様々な関係性をつくりだし、その可能性と制約のなかで生きています。家族から地域社会、国、世界へと、あるいは過去から未来へと広がっていく、そうした関係性の網の目が、どのように織りなされ、そのなかで人はどのように形作られているのか。一緒に考えてみませんか。

Point

講義では現場を見、考えるための「構文」や「視点」を身に着けるとともに、文献や資料をいかに読むかを学び、実習を通じてフィールドワークの練習をします。卒論では学生個々の興味・関心にもとづき、具体的な対象(地)、資料を定めて調査をします。それぞれの異なる視点をぶつけあうゼミは、刺激的ながら和やかな雰囲気です。また、文化人類学、民俗学、歴史学を専門とする教員から構成されるコースのため、問口が広く、多様な角度からの指導を受けることができます。

PROFESSOR



徳丸 亜木
[民俗学]

民俗学は、人びとが言葉や行為、あるいはモノとして伝えてきた伝統的な生活や行事を地域でのフィールドワークを通じて記録し、そこに示される私たちの伝統的な心意やその現代的なありかたを考える学問です。文献からの知識とみずからのフィールドワークでの発見とを重ねて、私たちが伝えてきた民俗について考えてみませんか。



木村 周平
[文化人類学]

これまで中東のトルコ共和国と日本国内でフィールドワークを行ってきました。人々の暮らしや文化と自然環境、社会制度や科学技術の関わり合いとして現れる災害について研究しています。



塩谷 哲史
[歴史学]

おもに中央アジア、中東、ロシアでの文献調査、フィールドワークを通じて、中央ユーラシアのダイナミックな歴史の動態と、乾燥地域における人と環境とのかかわりの特徴とは何かについて考えています。



佐本 英規
[文化人類学、オセアニア研究]

南太平洋の島嶼国ソロモン諸島や日本の中山間地域などでフィールドワークを行っています。特に音楽や芸能、芸術と、社会や文化、世界との関わり合いに興味があり、人類学的アプローチによる研究を進めています。

日本・世界における地域文化の多様性をフィールドワークによって明らかにし、
人間と場所のかかわりを通して「人間とは何か」を体系的に学ぶ。



文化地理学コース

場所・空間・地域・環境・生態・景観といった言葉をキーワードとし、
フィールドワークを通して世界の諸地域における人々の生活・文化の諸相を明らかにします。

文化地理学の魅力は、研究対象が身近に存在することにあります。地表面に生起する政治、経済、社会、文化などあらゆる現象を文化地理学的な視点から問題にすることが可能です。文化地理学は、地図や空中写真、行政統計、古文書などの多様なデータを駆使し、野外での観察や聞きとりといった現地調査（フィールドワーク）を武器に、文化現象を分析していく学問であるといえます。文化地理学コースでは、文化研究の一つの手段（武器）として、地理学的なものの見方・考え方・スキルを修得し、広く社会で活躍する人材を養成することを目的としています。これまで金融・保険・運輸・通信・観光・マスコミ業界や地方公務員として活躍する人材を輩出してきました。また大学院（生命地球科学研究群地球科学学位プログラムほか）に進学して、修士号・博士号を修得し、研究者・教育者として活躍する先輩も多くいます。

Point

1・2年次では、学問上の基本的な概念の理解および研究手法の修得を目指しています。講義と実習を通して、文化地理学のモノのみかたから、研究資料の収集方法、GIS（地理情報システム）を用いた分析手法、パソコンによる主題図作成にいたるまで、懇切丁寧に指導します。3年次からはゼミに所属し、専門的なトレーニングをします。フィールドワークに基づく徹底的な実証研究には定評があり、筑波大学は日本の地理学をリードする存在になっています。先輩・後輩のつながりが強く、教員・学生一体となった懇親の場が多いのも特徴です。文化地理学コースでは濃密な学生生活を保証します。



松井 圭介

[文化・宗教地理学 観光文化論]

地理学は空間・場所と人間とのかかわりを探究する学問です。『日々旅にして旅を栖（すみか）とす。』松尾芭蕉ではありませんが、一緒にフィールドから人間の生活文化を考えてみませんか。



森本 健弘

[農業・農村地理学 地理空間情報の活用と地理情報システム (GIS)]

環境や土地を人が利用する仕方、そこに込められた努力を、地理学のツールで探求してみませんか。



久保 倫子

[都市地理学、ハウジング・スタディーズ、北米地誌]

文献研究やフィールドワークを通じて、一緒に地理学の奥深さと楽しさを味わいましょう。

PROFESSOR

表現文化領域

テキスト文化学コース

地域の区分を越えた文学研究や大衆文化研究をします。

テキスト文化学コースでは、テキスト——いわゆる文学作品ばかりではなく、映画やマンガなども含む、包容力に富む概念です——がどのように生じてくるのか、そしてどのように変容していくのかといったことに注目して、表現文化を体系的に学ぶための教育を行っています。その際、一つの言語や文化を詳しく掘り下げるというよりは、文学理論や比較文学、文化研究などの手法を用いて、さまざまな方面からテキストを読み解くことを目標にしています。こうした学修のなかから、あなたも自分独自の問題意識を磨き上げ、卒論に結実させてください。文章を読んだり書いたりするのが好きな人や、いろいろな作品をじっくり分析したい人に向けたコースです。

Point

世界の文学を比較して論じたり、ジャンルを超えて文学や映画やマンガの作品を総合的に分析したりします。ほとんどが少数のクラスで、学生どうしが密度の濃いディスカッションを頻繁におこないます。発表の機会も多くありますので、自分なりの徹底した作品の読み込みなど披露してください。教員の使用可能言語が多彩なのも特徴。授業補助役の大学院生として、世界各地からの留学生と出会う機会もあります。

PROFESSOR



齋藤 一
[文学理論]

19世紀末～20世紀初頭の英語圏小説研究（ポストコロニアル批評）から出発して、「英文学学」（仮）——近現代の日本における「英（米）文学研究」の社会・歴史的意義の探求——にたどり着きました。



平石 典子
[比較文学]

近現代において、異文化との接触がもたらした新しい文学表象について考えています。ひとつの物語を「異なる文化」「異なる言語」という視点から読み直すことで世界が形を変えるさまを、みなさんにも体験してほしいです。



三原 鉄也
[人文情報学・メタデータ・マンガ制作/利用支援]

研究と並行して行っているマンガ制作実務の経験をベースに、情報技術、特にデータを活用したマンガの制作・流通・探索・保存に関心を持っています。



吉原 ゆかり
[文化研究]

シェイクスピアがマンガにされるってどういうんだ？ロミジュリな映画『ウェストサイド物語』によると、冷戦アメリカではコミックスを読むと不良になるとされてたらしい、などを研究しています。



五月女 颯
[文学理論・ジョージア文学]

環境保護は大事だけれど、でも守るべき「環境」って？という疑問を文学から考えつつ、実はジョージア（グルジア）文学の研究もしています。

イラスト：横井三歩（渉）（比文 2003 年卒）

地域の限定を超えた文学や多様な大衆文化、美術・映像・音楽などの表現文化、それらをささえる社会理論や思想を広く探求する。



文化創造論コース

広義の「文化」に関わる諸問題を対象とし、芸術・文化・思想を学際的に扱います。

文化創造論コースは次の三つの視点から、文化創造のダイナミズムを学生の皆さんと一緒に研究し、理解していきます。

- 1) 文化創造の現場と連携し、社会との関係性を問いながら、文化創造のダイナミズムを分析することを目指します。
- 2) 芸術・文化（音楽、絵画、オペラ、公共ホール、映画、エコクリティーク、サブカルチャーなど）について批評的に学ぶことができます。
- 3) 現代社会の諸問題（権力、差別、マイノリティ、ジェンダー、セクシュアリティ、環境など）について思想的に学ぶことができます。

以上の三つの視点を中心に、文化創造とその意義を多角的に分析し、理解します。

Point

文化創造論コースは、学生の皆さんと新しい試みを行っていくために誕生しました。芸術・文化創造を、現代の脱領域的な理論・思想に立脚して幅広く学べるコースです。また、筑波大学では唯一、音楽関連の授業を開設しています。

PROFESSOR



江藤 光紀

[近現代の芸術思想（美術・音楽）、劇場研究・万博研究、表象文化論]

像や音に対する感性を研ぎ澄ませ、芸術を通じて主体的に社会にコミットしたい人をお待ちしています。



小川 美登里

[フランス文学、芸術批評、ジェンダー]

フランスを中心とする文学や批評、芸術論（音楽、映像）、翻訳などに興味を持っています。文化を学ぶことは広大な海を泳ぐようなものだと思いますので、どこかでみなさんの感性や情熱と出会うことができればうれしいです。



佐藤 吉幸（嘉幸）

[フランス現代思想、社会理論]

授業では、フーコーやドゥルーズなどの思想を取り上げ、現代社会の諸問題に結びつける読解を試みています。知的好奇心の旺盛な皆さんとやりとりできることを楽しみにしています。

ワンプラネット文学・文化関係学コース One-Planet Relational Studies in Literature and Culture

“As each has received a gift, employ it for one another, as good stewards of our world.”

“One-Planet Relational Studies in Literature and Culture” offers a new approach to research in literature and culture for students who are interested in the future of our planet, in understanding our globally shared problems and in finding creative solutions. The program focuses on global crises issues such as Global Warming, Aging Society, Refugee and Migration, Gender Equality, Discrimination, Poverty, Plastic Pollution, Nuclear Hazards, and Hunger, and reviews counteractive concepts such as Resiliency, Sustainability, Mindfulness, and Stewardship. The course uses English as our global language for international communication and co-operation and offers students the chance to come together and engage in English-based international research and communication.

Point

Enjoy an English-language study and research environment with lots of international contacts, while improving your English at the same time. Meet friends who not only share your interests but also your commitment to a better and sustainable world. Participate in fieldwork and exchanges with the whole world. Create your own research interests. Combine your studies with other classes in 比較文化学類, for example: English-language classes from 英語圏文学・文化コース or other classes from 表現文化領域.

Be at home in the world!

このコースでは、たくさん国際的な触れ合いを通じて、英語学習と研究の環境を楽しむとともに、英語能力を向上させます。よりよく持続可能な世界へのあなたの興味、そしてそれへの関わりを、ともに分かち合える友人たちと出会えます。フィールドワークや全世界との交流に参加することで、自分自身の研究関心を生み出します。比較文化学類の他の授業、たとえば、英語圏文学・文化コースの英語での授業や表現文化領域の授業とあなたの研究を結びつけることができます。

世界に精通しましょう!



Herrad Heselhaus (ヘラト・ヘーゼルハウス)

[ワン・プラネット文学、ワン・プラネット文化学]

In the “One-Planet” course, I teach the relationship between global (local) crises and culture, literature, and philosophy. My teaching and my research are driven by the desire to better understand humankind and to find ways to create a more just and sustainable world.

Check out my website at: <https://herradheselhaus.weebly.com/about.html>

「ワンプラネット」コースで、グローバル（ローカル）な危機や文化、文学、哲学の関係について教えています。私は教育や研究を、人類についてよりよく理解し、より公正でサステナブルな世界を創造する方法を見出したいという強い願いのもとに進めています。

私のウェブサイトをチェックしてみてください。

<https://herradheselhaus.weebly.com/about.html>

PROFESSOR

文化科学領域

先端文化学コース

テート・モダンの
エントランス
(London)



バーナード・リーチの工房 (St. Ives, England)



各時代の先端的な思想や理論を踏まえて現代文化について学ぶ。

〈現代〉の世界において、文化、芸術、政治などのあらゆる事象がめまぐるしく流動し、私たちは未知の出来事やイメージに遭遇しています。先端文化学コースでは、既成の学問や理論に頼らない〈自由〉な発想で、〈現代〉の〈切っ先〉に現れる文化現象を捉えます。そのためには、これまで結び付いていなかった領域や時代を、大胆に横断することも必要でしょう。また文化の根源を掘り下げ、その〈自然〉や〈記憶〉を目覚めさせることも必要でしょう。先端文化学コースは、このように〈現代〉を捉えるための専門知識や問題解決能力を養成します。

Point

本コースでは、みなさんの自由な発想を学問の言葉にするために〈文化摩擦論〉〈表象文化論〉〈文化記憶論〉〈イメージ人類学〉〈身体・感性文化論〉などを専門とする教員が、ひとりひとりの自由な発想を受けとめて、ていねいに指導します。世界規模の大問題でも、ちょっとした心のわずかな動きの問題でも、本コースでは一緒に考えていきます。卒業論文の計画を、学生同士で議論する機会も設けられています。



対馬 美千子

[表象文化論、文学への思想的アプローチ]

現代文化・社会とのかかわりで現代の作家や思想家（例、ベケット、アーレント等）を読んでいます。授業では学生の皆さんから生まれる思考やことばに耳を傾けることを心がけています。



廣瀬 浩司

[フランス思想・現象学]

メルロ＝ポンティの身体論・生命論から出発して、こころの病理や芸術、社会の問題にどのような解決をあたえることができるかを考えています。ちょっとした感性の気づきを学問のことばにするお手伝いをします。



山口 有梨沙

[イメージ文化論、ファッション史]

主に近現代イギリスを中心としたファッション史やイメージ文化を学んでいます。衣服－身体－イメージの関係を、表象文化を参照しながら考察しています。混乱のなかで、ゆっくり言葉を紡いでいく時間を楽しめたらと思います。



濱田 真

[近代ドイツ文化論・芸術論]

ドイツを中心にヨーロッパの近代から現代にいたる各時期の文化の諸相を美学・芸術論的観点から考察し、「先端文化」の問題を文化記憶の問題と関連づけて考えています。



山口 恵里子

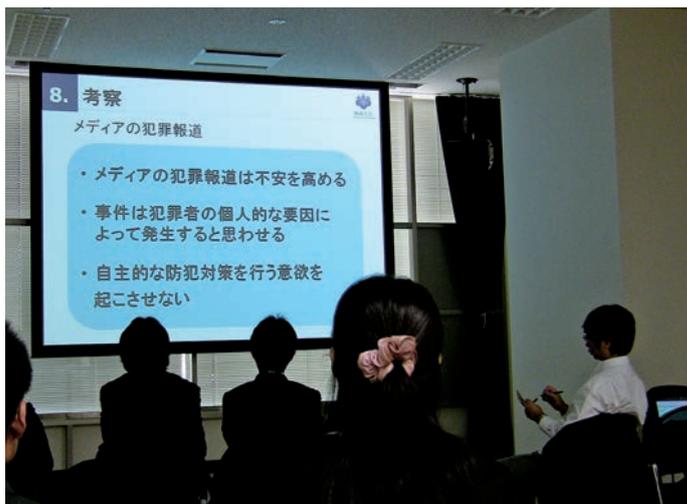
[イメージ人類学、イギリス美術]

イメージはどのように現れ、どのように受容され、どのように伝えられるのか。美術史と人類学の接続したアプローチでこの問いを追究しています。主なフィールドはイギリスのアートシーン。時代のエッジの上を歩いています。

生命・身体文化、メディア、ジャーナリズムなどをキーワードに、
人間社会の諸問題について複合的な視点から探究する。



情報文化学コース



メディアに関する研究発表会



(上)授業風景



(下)8Kスーパーハイビジョンの美しい映像

情報化社会の実相を読み解く

太古の身ぶり、手ぶりに始まって、高度に発達した現代の情報メディアを介したコミュニケーションまで、研究対象は複雑かつ多岐にわたります。「コミュニケーション」という言葉自体、多義的ですが、情報文化学コースでは、「情報」「メディア」「マスコミ」「ジャーナリズム」「大衆社会」などをキーワードに社会科学的・人文科学的アプローチによって情報化社会の実相を分析し、そこで提起される問題をどう捉えるか、考える道筋や方法の修得を目指します。知的好奇心の旺盛な学生諸君との出会いを楽しみにしています。

Point

メディアに触れずに一日を過ごさないことはほとんどないでしょう。そのような現代の情報社会を読み解くうえで、情報文化学特有のものの見方や考え方があります。「情報文化概論」や「映像文化論」などの講義科目や「コミュニケーション論演習」や「情報社会論演習」といった少数科目を通してそれを習得していきます。また、勉学は勿論のこと、サークル活動に、アルバイトにと多忙な毎日が続くはずですが、そうした日々の明け暮れのなかにおいて、現実や社会に対する強い関心をぜひ持ち続けてほしいと思います。みなさんが取り組むのはなによりもいま社会で生起するアクトアルな問題であるからです。



海後 宗男

[デジタル・デモクラシー、市民参加、非伝統的安全保障、リスク・コミュニケーション]

最近では市民参加と SNS 活用の実証的研究を行っています。



白戸 健一郎

[メディア史、メディア文化論]

- ・知を楽しむこと
- ・文化への好奇心を持ち続けること
- ・物の背後にある時間と思いを想像すること

PROFESSOR

思想文化領域

現代思想コース

Tシャツを着るように哲学をしよう♪

いろんなことを考えるのが好きな人に、めちゃめちゃ楽しい哲学・思想コース。このコースはたぶん日本中でここにしかない、生きた哲学の場所。特徴は4つ!!

- (1) 昔ながらの狭い体系的な哲学研究に閉じこもらない!! ここでは、芸術・文学・映像・歴史・宗教など、自分の好きな分野を組み合わせた「マイ・プログラム」で深く深く学べる。
- (2) 「哲学者について学ぶ」だけじゃない!! ここでは「自分の考えたいこと・知りたいこと」(例えば「友達とは何か」「幸せって何か」「戦争って何か」)、つまりあなたの「マイ・テーマ」を自由に掘って行ってOK。
- (3) 「本を読んで勉強する」だけじゃない!! ここはみんなで話して、自分の言葉で、自分の実感のある哲学を深めていくところ。例えば「哲学カフェ」っていう授業がここにはある。文系・理系の壁、先生・学生の壁を越えて、多様な人が毎週ワイワイガヤガヤおしゃべりをして哲学を深めていく。そんな超満員の楽しい授業があるのもこのコースの特徴。
- (4) ここは「現代思想コース」じゃない!! 実は、ここで学べるのは、現代哲学、現代倫理学、中国思想、東洋思想。四人の面白い専門家がいます。会うだけでも世界が広がるかも(笑)。

学問は楽しい。そして哲学は本当に面白い。そういう濃い4年間を過ごしたい人に。
この先生たちがおしゃべりしてるYouTube、のぞきにきてね♪

Point

「哲学カフェ」っていう、コーヒーを飲みながら芸術系や理系の人も来ていっぱい話し合う〈ウロコぼろぼろ〉系の「授業」も普通にある。ハイデガーやヴァイトゲンシュタイン、老子もカントも、ハーバースだってどこまでも深く読める。しかも「わかる!!!」し感動する! 映画や音楽・就活や恋愛・死と生・みんな真剣な哲学のテーマです。「哲学って面白い!!!」「大学来てよかった〜(T.T)」ってみんなハマってます。本当に心の底から楽しくて、そして自分が成長できること。それが大学でやる真の「学問」です。濃い四年間、保証します。



太田 紘史

[心の哲学、倫理学、実験哲学]

善悪、意味、時間、自由、死、そういう「微妙なもの」の正体が気になってしまうという人は、哲学に向いてると思います。



巖 錫仁

[東アジア思想史]

現代につながる東洋思想の魅力を勉強します。



井川 義次

[哲学(中国哲学・比較哲学)]

「天我が材を生ずるは必ず用あるなり」(李白)。天が私をこの世に生んだのは必要があるからだ、というモットーで日々生きています。



橋本 康二

[分析哲学]

分析哲学は直観と論理によって世界を解明していきます。

PROFESSOR

思考・認識・言語・論理・倫理／社会・実践・経験・歴史・フィールドなどを
キーワードにして、哲学や宗教を学ぶ。



比較宗教コース



ホメイニー廟



ディネ（ナヴァホ）のNight Chant 儀式の像
Navajo Nation Museumの許可により掲載

(中央上) Yá'át'ééhはディネ（ナヴァホ）語で「こんにちは」、
より深い意味で「天（空）の子」
(中央下) 比較宗教実習の様子

世界の諸宗教を精神性、思想、歴史、社会の観点から学ぶ

21世紀のグローバル社会で生きていくために、世界の諸宗教を学ぶことが、従来になく、重要になってきています。宗教現象は多種多様であるとともに、宗教が人類史に重要な軌跡を残しているところからも分かるように、人間精神性の深みと関わっており、芸術、文化、経済、政治などとも関係してきます。宗教を通して人間は神々等との繋がりを見だし、宗教経験をを通して、利他の心で共同体の支援も行います。比較宗教コースは、宗教を人間現象として捉え、比較研究を通して、学びます。また、実習を通して、今日の生きた宗教にも触れながら、宗教現象を見る視点を学びます。

Point

比較宗教コースでは学年を追って専門的知識が身につくようにカリキュラムを編成しています。概論では、世界の諸宗教の基礎知識、宗教学の理論、方法を学びます。演習では、最近の研究動向を学びながら、諸宗教の主要な聖典等に触れ、宗教学の多様なテーマを学びます。講義では、宗教現象をより深く理解していくために、最近の研究動向も含めて、学びます。また、実習を通して、宗教の実際を見て学ぶことも重視します。



木村 武史
[宗教学、先住民民族宗教、神話学]

私の研究領域は、先住民宗教、神話、北米や日本の宗教ですが、他の宗教についても調べていますので、興味のある宗教、神話、儀礼等については何でも聞きにきてください。



平野 貴大
[宗教学（イスラーム学）]

私の専門はイスラーム思想史で、とくにシーア派という宗派を研究しています。ムハンマドによれば、知識を求めることは人間の義務です。これを motto に日々研究を続けています。

PROFESSOR

PROFESSORS' COLUMN

#01

どんな授業？ 宮崎和夫先生 欧米文化論



レコンキスタを完了させたイサベル女王に航海計画を説明するコロンブス

ヨーロッパが世界と接続され始めた、いわゆる「大航海時代」のお話です。この時代の最も重要な出来事ともいわれているアメリカ「発見」の1492年は、レコンキスタが完了し、ユダヤ教徒がスペインから追放された年でもあります。イベリア諸国がアフリカやアジアやアメリカと接触し、その社会を浸食し始めた時代は、領内のユダヤ人コミュニティとイスラーム・スペインという、いわば内なる異世界を踏みつぶしていった時代と重なるのです。イベリア半島人のこうした活

動は、異文化に対する歪んだ認識がその原動力となっていて、目的地に到達した航海者・探検家・軍人らは、そこに自分たちが見たいものを見て、主君や後援者たちに、見せたいものを見せることで、自分たちの活動を進展させていきました。そのような人々の働きによって、世界のさまざまな文明圏が一つにつながったわけですが、そのことがどのような意味を持つのかを、一緒に考えていきつけなければと思っています。

どんな授業？ 長尾宗典先生 日本の生活と文化

#02

日本研究コースでは、日本列島の歴史を、それぞれの地域で実際に暮らす人々の視点から捉えていく研究姿勢を大切にしています。人々の具体的な生活に迫るには、文献調査や聞き取り調査などの方法があります。この授業では、私が専門とする日本近代史の立場から、明治時代後半に地方で発行されていた雑誌を取り上げ、活字文化と地域社会との関わりについて講義します。今とは比較にならないほど交通も通信も不便な時代でしたが、1900年から1910年にかけて、20歳前後の青年たちの間では、雑誌の投稿欄を使っ

て全国の仲間と文通することがちょっとしたブームでした。彼らは、直接会ったことのない同世代の友人と写真を交換し、あるときは共同で文集を発行したり、あるときは世の中に対して大いに憤る文章を発表したりしていました。それはあたかも現代のSNSのように、明治の雑誌が若者を繋いでいた記録でもあります。まとめて残されることの少ない当時の古い雑誌を集めながら、歴史資料を残すことの意義や、現代との文化の接点についても考えていきます。



どんな研究？ 平野貴大先生

#03

私の専門はイスラーム思想史で、とくにシーア派の思想を研究しています。イスラームにはスンナ派とシーア派という2つの宗派があり、その人口比は8:2から9:1くらいです。シーア派はイスラーム教徒の中では少数派ですが、イランやイラクなどでは人口の多数派を占めています。私はもともと11世紀くらいまでの初期の思想を研究していましたが、最近では現代の宗教思想にも関心を持っていま

す。日本や欧米で書かれてきたイスラームについての本の多くは多数派のスンナ派の教義や歴史観を前提としてきましたが、少数派のシーア派の思想も加えて考察することでイスラームの全体像や本質が見えてくると考えています。近年は海外での文献調査や学者へのインタビューの機会も多く、その成果を発表することもあります。



イランの聖地コム
夜にライトアップされたファアテメ廟

ここが知りたい！！

Q

&

A

履修や試験は？

資格や留学を
考えているのだ
けれど…

学校生活は
どんな感じ
なんだろう？

比較文化
学類って？

どんな環境で
勉強するの？



比較文化学類全般について

Q 「比較文化」とは何ですか？

A 文化と聞くと、絵画、音楽、教会建築、文学作品などをすぐにイメージしますが、文化は、こうしたものばかりでなく、人間の生活様式全般を含んでいます。つまり、文化には、「食」「旅」「歴史」「マスメディア」「コンピュータ」など、人間のあらゆる営みが含まれています。

「比較文化」とは、それらを「比較する」ということになります。ただ「比較」は、いつも何かと何かを具体的に比べなければならぬということではありません。むしろ、「比較」は、多様な興味・関心を持っている皆さんが、学類の提供する幅広い学問分野を自由に履修する中で自然に生じてくるものです。つまり、たとえ対象が一つであったとしても、それを、文学的に、歴史的に、地理的にと、様々な観点から考えることで、知らずに比較という作業を行っているのです。

Q 所属する領域／コースはどのようにして決めるのですか？

A 所属領域／コースの決定の仕方については、入学したときからこれをやりたいと決めている人もいれば、入学後に授業などで新しい学問に触れて、興味を持った領域／コースに進む人もいます。

Q 人文・文化学群の人文学類との違いについて教えてください。

A 二つの学類は、一見すると似ているように見えます。実際、一部の専門領域には連携して行っているものもありますが、以下の点で異なっています。

1. 人文学類には、哲学、史学、考古学・民俗学、言語学の4つの主専攻があり、それぞれがさらにいくつかの<コース>に分かれています。それに対して、比較文化学類は1つの主専攻しかありません。つまり、人文学類と違って、比較文化学類は、どの領域／コースに属したとしても、比較文化という一つの研究を行うことができるように設計されているということです。
2. 文学は比較文化学類でのみ学べ、言語学は人文学類でのみ学べます。たとえば日本文学を勉強したい場合、比較文化学類の「日本・アジア領域」の「日本文学コース」に属することで古典文学や近現代文学を学ぶことができます。
3. 比較文化学類では、英語を始めとした外国語の学習に力を入れています。その基本的な方針として、原語で文献を読むことができる能力はもとより、実際に使える生きた語学の習得に力を入れています。

4. 比較文化学類では、人文学類にはない表象文化（美術・映像・音楽など）、生命・身体文化、さらには、情報文化やメディア、ジャーナリズムなどの専門領域を豊富に備えており、これらの授業科目を通じて現代の文化状況のアクチュアリティに迫ります。
5. 人文学類と重なっているように思われる、哲学、倫理学、宗教学などの専門領域についても、人文学類では文献研究を中心に体系的に学修するのに対して、比較文化学類では、こうした学問を社会に向けて開いていく努力を行うと共に、フィールド（現場）から考えていこうとしています。

履修や試験について

Q 試験はどのように行われるのですか？

A 原則として学期完結で授業が行われ、春・秋各学期の終わりに試験期間が設けられています。評価については、担当の先生によって多少の違いはありますが、たいいてい試験やレポートの成績で決まります。

Q 他学群、他学類の開設授業科目は履修できますか？

A できます。

学類の枠を超えた履修に対する制限は、



学食おいしいよ!



環境も充実!



ためになる
就職・キャリア支援交流会



ほとんどありません。履修した単位は「関連科目」として、一定数の科目について卒業に必要な単位数の中に算入されます。

Q 領域やコースをまたがって履修できますか？

A もちろんできます。

これは学部・学科というシステムを取っている大学との大きな違いといえるかもしれません。領域で要求される最低限の単位を取りさえすれば、各人の関心によって授業を選択し、自分なりのスタイルで勉強を進めていくことができます。

異なった専門の授業で会った先生や学生に刺激を受けることも多いでしょう。

Q クラス制度があると聞きましたか？

A 入学時に20人ずつ3つのクラスに分かれ、1年次の春学期には「ファーストイヤーセミナー」というセミナーを履修します。大学にまだ慣れない時期に、履修方法から生活の細々としたことに至るまで、そこで会う友達と情報交換できます。クラスで出会う友達は、専門とは必ずしも関係ないので、大学に慣れるために一緒に苦労した仲間として、逆に長くつきあえる間柄にもなるようです。

Q 先生との関係は？

A 比較文化学類の場合、教員約50名に対し一学年の学生数は約80名です。これは他大学よりも恵まれた環境といえるでしょう。

う。少人数の授業も多く、また卒業論文の指導もかなり丁寧に行われています。他大学の大学院などに進学した人の中には、ここでは先生とあまり交流出来なくて寂しいという感想をもらす人もいます。

Q フィールドワークについて教えてください。

A 比較文化学類の卒業論文には、フィールドワークに基づくものが少なくありません。とくに「文化地理学」「文化人類学」「日本研究」「比較宗教」の各コースには、その基礎を学ぶ授業が設けられています。ここでは、フィールド文化領域の文化人類学コースについて紹介しましょう。

文化人類学コースの場合、フィールドワークはもちろん学問的な調査なのですが、それだけでは済まない、多様な経験をするようになります。最初は言葉もわからず、慣れない生活にとまどい、孤独と不安に襲われることになります。やがて、現地に生きる人々と一緒に食事をし、儀礼に参加し、田畑を耕しながら、現地の社会生活に徐々に慣れていきます。ときに、複雑な人間関係のトラブルに巻き込まれたり、病気に苦しめられたりすることもあります。こうして、人々とともに泣き笑いを繰り返し、日々を過ごしていくうちに、人々のもつ知識や言葉に表せない観念を少しずつ学び取り、さらには身体感覚までも身につけていくのです。

Q 外国人の先生はいますか？

A 現在、比文専任の外国人教員は複数おり、英語による授業を行っています。「専門外国語」も、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、ロシア語、中国語、韓国語を母語とする外国人の先生が担当しています。このほか外国人講師を招いての講演会も開催しており、外国人の先生から学ぶ多様な機会があります。

資格や留学について

Q 教員免許の取得について教えてください。

A 比較文化学類では、国語、社会（高校は地歴、公民）、英語の教育職員免許状が取得可能です。くわしくは、本学メインホームページの「教職課程」(<http://www.tsukuba.ac.jp/education/tt-programs/index.html>)等を参照して下さい。

また学芸員、司書教諭の資格を取ることも可能です。

Q 語学力をつけたいのですが、比較文化学類ではそのような授業はありますか？

A 比較文化学類では語学をとくに重視しています。英語については、3年次まで専門外国語の授業を設けており、ディベートやライティングなど生きた語学力を高めることができます。外国人教員の授業もありますのでコミュニケーション能力を養うことができます。初修（第2）

外国語は、比較文化学類でも独自の科目を開設しており、やはり外国人教員による授業があります。ドイツ語・フランス語・中国語・ロシア語・スペイン語・韓国語に加えてギリシア・ラテン語・インド古典語が学べます。他にチベット語やイタリア語も学べ、学習の刺激になります。比較によって、英語だけではわからないことが見えてくるからです。演習などで外国語の論文を読めば、歯ごたえのある文章を読みこなす力を高めることができます。また比較文化学類では現代文化や諸地域の問題への関心を重視していますから、それによって、たんなる機械的な学習にとどまらない、アクチュアルな語学学習の動機を高めることができます。

Q留学制度はありますか？

A カナダ・中華人民共和国・マレーシア・オーストラリア・エジプト・アメリカ・ドイツ・ポーランド・ロシアなどの大学と交流協定を結んでいます。また交換留学制度がなくても、イギリス・アメリカ・フランス・スペイン・カナダ・韓国・トルコなどさまざまな国へ自発的に留学する学生がかなりいます。

くわしくは、本誌の「留学」のページ（グローバル・コモンズ 電話029-853-7420）、比較文化学類が発行している「留学ハンドブック」（学類ホームページよりダウンロードができます）、本学メインホームページの「海外留学を希望する方へ」（<http://www.tsukuba.ac.jp/campuslife/go-abroad-stay/index.html>）等を参照してください。

勉強の環境について

Qインターネットは使えますか？

A インターネット利用を助けるため、筑波大学では、自由に利用できるパソコンを図書館、学術情報処理センター、比

較文化学類のコンピュータ室など多くのところに置いています。学生は誰でもメールアドレスをもらえ、ホームページを作ることができます。この環境を利用してみなさんもさまざまな情報を得たり、メールを交換したり、情報を世界に発信したりすることができます。また学生宿舎には各室にLANが引かれています。

Q図書館は充実していますか？

A 筑波大学の附属図書館は他大学に比べてもとても充実していて使いやすく、授業のレポートはもちろん、卒業論文を書くまで、まず困ることはないでしょう。洋書や貴重書なども多く、むしろ蔵書が充実しすぎていて、選べなくて困るくらいです。自宅からでもインターネットで蔵書検索ページにアクセスすれば、キーワードで簡単に検索したり、貸し出しを予約したりできるので便利です。検索をはじめ、図書館を使いこなすためのさまざまな手段については、しばしばガイドンズが行われ、また先輩や教員もていねいに教えてくれるでしょう。貴重な古典籍や過去の新聞なども、マイクロフィルム・電子データだけでなく原本を見ることができます。詳しくは筑波大学附属図書館のホームページ（<http://www.tulips.tsukuba.ac.jp/lib/>）を参照してください。

生活の環境について

Q学生宿舎について教えてください。

A 筑波大学では、ほとんどの1年次生が入居できるだけの学生宿舎を、キャンパス内に用意しています。筑波大学の宿舎は、いわゆる「寮」とは違って、管理は学生自身に任されています。いわば大学が提供してくれるアパートのようなもの。門限はありません。

Q車がないと不便だと聞いたのですが。

A かならずしもそうではありません。大学周辺には、大きなスーパーもあり、飲食店なども多いので、自炊をしない人でも心配はありません。学生食堂で夕食をとることもできます。

学内ならば移動は自転車ですみ、低額のバスも通っています。周辺の地域から、バスなどを利用して通っている人もいます。

Qアルバイトはどうやって見つけるのですか？

A 一般的なものから家庭教師、塾講師に至るまで、さまざまなアルバイトを大学で紹介しています。また先輩などから紹介される人も多いようです。

Qサークル活動にはどのように参加するのですか？

A 入学時のオリエンテーションなどで、先輩たちがくわしく説明してくれます。また大学からも、公式のパンフレット『課外活動団体紹介誌』が渡されます。全サークルについてそれぞれ活動している曜日と時間、場所などとともに、活動内容が紹介されています。ただ、大学が認めていない、問題があるサークルが本来の目的を隠して勧誘することもあるので、十分に注意してください。

Qサークルはどこで活動しているのですか？

A 文化系・体育系・芸術系の三つのサークル会館と呼ばれる建物があり、そこを拠点としている団体が多いです。ほかに一般の教室を用いたり、運動の場合は体育施設を用いたりすることもあります。また学外の施設を利用している場合もあります。

学生組織紹介

Student Organization Introduction

▶全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議

▶クラス代表者会議

▶新入生歓迎委員会

▶オープンキャンパス委員会

全学学類・ 専門学群・ 総合学域群 代表者会議

全学学類・専門学群・総合学域群代表者会議（通称、全代会）は各学類、専門学群、総合学域群のクラス代表者会議より3名ずつ選出された代表（座長団）によって構成されている大学公認の学生組織です。本会議を通して学生生活改善のための諸案などについて話し合い、大学へ要望を伝えるほか、学生の代表として意見を述べる役割を持っています。

また、全代会は6つの常任委員会によって構成されており、全代会の活動が円滑に行われるよう、また大学における授業や学生生活が向上するよう、さまざまな活動に取り組んでいます。

各委員会の詳細な活動内容や本会議の議題に興味がある方は年に3回、広報誌のCampusが発行されているほか、全代会HPも随時更新されておりますのでご参照ください。

クラス代表者 会議

クラス代表者会議（通称、クラ代）は各クラスから選出されたクラス代表によって構成されている大学公認の学生組織です。比較文化学類では例年各クラスから2名ずつ選出されており、学類内やクラス内から出た学生生活における問題・意見を収集し、先生方や大学・学類に伝達する役割を持っています。主な活動としては1・2年生のクラス代表が参加して学類・クラスに関する問題や決め事について定期的に話し合う「定例会」のほか、比文生の意見をアンケートなどで集約し、先生方と話し合い大学・学類へ提出する「クラス連絡会」を年2回開催しています。また、学習室の整備や新歓・オープンキャンパス委員会との連携など、比文生の学生生活をよりよくするためにさまざまな活動に取り組んでいます。

新入生歓迎 委員会

私たち新歓委員会は新入生の円滑な学生生活のサポートをするため、様々な企画を行っています。オリエンテーション局、イベント局、パンフレット局に分かれ、それぞれ入学式後のオリエンテーションの企画・実行、新入生同士・新入生と上級生の間の交流を図る多くのイベントの企画・実行、合格後に、大学についての情報をお届けする『とらのしっぽ』『虎の巻』などのパンフレットの発行を行なっています。これらの企画を通して、新入生がより多くの人と知り合い、より多くの情報を得て、快適な学生生活を送れるよう、活動に積極的に取り組んでいます。

オープン キャンパス 委員会

オープンキャンパス委員会では毎年8月に行われる筑波大学説明会において、受験生に向けて比較文化学類でできる学び、つくばでの大学生生活、比較文化学類の受験などについて説明会やイベントを通して伝えます。説明会では学生による大学紹介や教員による受験説明、模擬講義を行います。イベントとしては教員や学生による個別の面談や大学構内案内を行います。また、筑波大学での生活や受験についてまとめたパンフレットを作成し、公式の学類紹介とともに配布します。これらの活動を通して受験生に比較文化学類の良さを伝え、さらに受験や入学後において役立つ情報を提供します。

比文生の一日

ここでは、比較文化学類の学生の日常を学生目線でみなさんに紹介しようと思います。以下に紹介するのはあくまでもモデルなので、みなさんの興味ある授業を積極的にどんどん取ってみてください!! ただ、絶対に取りたくてはいけない授業(必修授業といいます)や、受講制限のある授業もいくつかあるので、細かな履修については、しっかり履修要覧やシラバスを熟読してくださいね。では、平日と休日の過ごし方について、それぞれ紹介していきます。



比文生の一日 宅通編

宅通の朝は早い。東京在住ですが、TXは早いで駅までは1時間もかかりません! バスで移動します。これが結構混んでいて時間がかかります。

お昼ご飯は学食と決めています。大学内には食堂が10店舗以上あるので飽きないです!

授業で勉強したり、図書館に行ったり。たまにスターバックスでおやつを食べたり。

すぐ帰ってもいいのですが、お腹がすくので外食したり、友達の家に行って一緒にご飯を作ったりします。

電車の中ではSNSを見たり、課題をしたりしています。遅すぎると明日に響くので、割と早めに寝るようになっています。

07:45	起床
08:30	出発
09:30	つくば駅着
10:00 10:10	大学着 2限
11:25	昼休み
12:15	3限
13:30	空きコマ
15:15	5限&6限
18:00	授業終了
19:00	夕食
20:00 20:20	バスに乗る つくば駅着
22:00 22:30	帰宅 お風呂
23:30	自由時間
24:30	就寝

6:00	起床
7:00	朝食・宿舎を出発
8:00	起床
9:00	1・2限 データサイエンス
10:00	1・2限 データサイエンス
11:00	昼休み(学食で昼食)
12:00	3限 比較文化研究
13:00	3限 比較文化研究
14:00	4限 概論科目
15:00	5限 日本語・日本文化学類の授業
16:00	5限 日本語・日本文化学類の授業
17:00	一旦宿舎へ(家事・洗濯など)
18:00	一旦宿舎へ(家事・洗濯など)
19:00	部活のトレーニング
20:00	部活のトレーニング
21:00	夕食(同期とトンカツ屋へ!)
22:00	夕食(同期とトンカツ屋へ!)
23:00	宿舎へ帰宅・課題
24:00	宿舎へ帰宅・課題
25:00	就寝zzz...

1年次のある木曜日

平砂学生宿舎から教室までは自転車です〜10分! 急げ!

1年次の必修授業!

昼休みの学食は大にぎわい! パンやお弁当も充実しています。

「比較文化研究」や「概論」は主に1年生向けの授業です。あまり知らない分野でも基礎から学ぶことができるのでオススメです!

他学類の授業も取りやすい!

広く自然豊かな大学構内でランニングするのは爽快!

大学周辺には美味しいお店がたくさんあります!

試験期間にはテスト勉強やしポートの作成に追われます... コツコツ取り組もう!



平砂学生宿舎



第2エリア食堂

卒業後の進路

卒業生は、マスコミ、教育はもちろんのこと、
金融、流通、地方行政、国際機関、NGOなど、各界に広く受け入れられています。
大学院に進学する人も少なくありません。

社会で活躍する著名な先輩たちのなかには、芥川賞作家、マンガ家、クリエイターなどもあります。

楽しく生きる!!

— 比文のキャリア支援 —

「キャリア教育」とか「キャリア支援」というと、「就活の準備でしょ?」と言われる。他大学でも「キャリア支援」といえばまさに「就職支援」。でもそれは大間違い!

私たちが考える「キャリア」って、あなたの「人生」のこと。あなたの生きている「この毎日」がまさにあなたのキャリア。つまりあなたはもうあなたのキャリアを生きているのです。だとすれば「キャリア支援」って?それは、あなたがあなたの人生を「もっと楽しく」、あなたの毎日を「もっとあなたらしく」生きていく支援なのです。

そのために必要なのはなにか?

それは「どんな人ともフツーにつながっていける力」「どんな場所でも縮こまらず、下を向いて生きず、自分を責めず、他人の目を気にして迎合せず、目の前にいる人と一緒に考えて一緒に作っていける力」なのではないか?そう私たちは思っています。人生にはいろんな場面がある。でも、どんな時でも自分を殺さずに、目の前にいる人と普通に、平らにつながって、一緒に問題を解決していけば、きっと人生はどうにかなる。そうな

れほどどんな場所に行ってもあなたは「ドレイ」にはならない。きっと人生はあなたのものになります。

もちろん「狭い意味」での就職支援も比文は提供しています。4年生たちとの「就活経験シェア会」、卒業生を迎えての「卒業生フォーラム」、各種インターンシップ、最先端の研究を行っている研究施設、大学・会社・社会の第一線で活躍する卒業生の職場などを訪れて研究者や企業家と話す機会 etc. 本学のキャリア支援室・就職課との連携だって比文はとても緊密です。でも、それだけじゃない。上級生と一緒にお菓子を食べながら時間割を相談する「履修相談会」、みんなで話題の映画を見て話したり、自分たちのためのイベントを考えたりする「比文プロジェクト」。全部「いろんな人とつながって、あなたがあなたの毎日をプロデュースするためのキャリアの機会」、私たち比文があなたに提供しているキャリア・プレゼントなのです。

ここはあなたが「楽しく生きる」ことをトライする場所。そのトライが、卒業後のあなたの人生に直結する、今「ここ」での、もう始まっているあなたのキャリアなのです。

比文で取得できる免許

本学類では、教科および教職に関する科目を所定の単位数満たせば、中学校教諭一種・高等学校教諭一種の普通教員免許状(国語、社会(中)、地理歴史(高)、公民(高)、英語)を卒業時に取得できます。ほかにも、社会教育主事、学芸員、司書教諭などの免許も取得可能です。



就職・キャリア支援交流会

■ 近年の主な卒業生進路(例)

企業・団体			
■ マスコミ・出版 日本放送協会(NHK) 読売新聞 共同通信社 時事通信社 日本テレビ テレビ信州 東北新社 中央出版 宝島社 帝国書院 天狼院書店 中国新聞社 日本経済新聞社 朝日広告社 BuzzFeed Japan 電通アドギア 博報堂プロダクツ NHKエンタープライズ エイベックス マイナビ 第一法規 ■ 金融・保険 常陽銀行 筑波銀行 群馬銀行 静岡銀行 清水銀行	水戸信用金庫 東京海上日動火災保険 三井住友海上火災保険 三井生命 アメリカファミリー生命 かんぽ生命 アフラック生命保険 ■ 商社・流通 伊藤忠エネクス 三菱商事ファッション イオンリテール ニトリホールディングス レナウン ZOZO 東京流通センター 住友倉庫 中央物産 ■ 運輸・旅行 日本航空 全日本空輸 JR 東日本 JR 九州 富士急行 日本交通 首都高速道路 ANA セールズ クラブツーリズム エイチ・アイ・エス プリンスホテル	星野リゾート JTB 江ノ島観光マリンリゾート ■ 情報・通信 日本 IBM 楽天 ソフトバンク NTT 東日本 アイレップ 兼松エレクトロニクス ■ サービス セコム サンリオエンターテインメント ニチイ学館 リクルートジョブズ Indeed Japan ■ 食品 味の素ネオラルフーズ 江崎グリコ カルビー サントリーホールディングス ■ 建設・機械・電気 日本電気 大林組 川崎重工業 三井住友建設 日立建機 スズキ	日化エンジニアリング 三井ホーム ■ 製造・販売 パナソニック YKK ダイキン ジョジョ・エンド・ジョジョ 日立製作所 TOTO エムテック ユニクロ ライオン DHC イープラス ボーネルンド イオン 東京インテリア家具 ■ 不動産 グローバルマネジメント NTT 都市開発 ■ 医薬品 アステラス製薬 シード 塩野義製薬 ■ その他 国家公務員共済組合連合会 牧阿佐見バレエ団

教員				
■ 公立 茨城県 千葉県 群馬県 埼玉県 静岡県 山梨県 愛媛県 鹿児島県 ■ 私立 大妻中学高等学校 錦城高等学校 フェリス女学院	官庁・自治体・独立行政法人等			
■ 官庁他 外務省 国土交通省 総務省 警視庁 海上自衛隊 東京消防庁 宮城県警	■ 自治体 東京都 千葉県 いわき市 守谷市 神戸市 目黒区 茨城県 静岡県 秩父市 常陸太田市 福山市 荒川区 栃木県 石岡市 筑西市 松江市 北区 群馬県 富山県 ひたちなか市 横浜市 阿波市 埼玉県 長崎県 つくば市 逗子市 港区	■ 他 筑波大学 日本芸術文化振興会(国立劇場) 中小企業基盤整備機構 東京大学 日本新聞協会 横浜労災病院 高エネルギー加速器研究機構 法務省宇都宮保護観察所 静岡県立病院機構		

進学				
■ 筑波大学大学院 人文社会科学研究群 生命地球科学研究群 人間総合科学研究群	■ 他大学院 北海道大学 東京外国語大学 京都大学 白百合女子大学 早稲田大学 東京大学 名古屋大学 大阪教育大学 東洋大学 東北大学 一橋大学 金沢大学 広島大学 明治大学 プリンストン大学			

笹山敬輔

富山めぐみ製薬株式会社／代表取締役社長
1998年度入学、2004年度卒業 比較現代文化専攻

私は比較文化学類を卒業後、筑波の大学院で演劇を研究し、今は富山の製薬会社を運営しています。仕事の傍ら研究を続け、2～3年に1冊のペースで本を出したり、出版社からの依頼でインタビューをしたりもしています。

比文には、自分の好きなことを自由に研究できる環境がありました。演劇を研究したのも、大学に入ってから芝居を観たり、舞台のスタッフを手伝ったりしたことがきっかけです。

今の世の中は、すぐに「役に立つ」知識ばかりが求められています。しかし、変化の早い時代には将来、何が「役に立つ」が分かりません。比文に興味があるみなさんは、文学、映画、マンガ、アニメ、ゲームなど、きっと何か好きなものがあるでしょう。たとえ仕事に直結しなくても、人生で辛い出来事にぶつかったとき、その好きなものがみなさんを救ってくれるはずです。ぜひ比文で好きなものを極めて、本当の生きる力を身につけてほしいと思います。



李逸丹

株式会社KADOKAWA/学芸ノンフィクション編集部
2017年度入学、2021年度卒業 文化人類学コース

私は2015年、京極夏彦先生の著作をきっかけに日本に留学し、妖怪を専門的に勉強できる民俗学を専攻しようと思い、比較文化学類に進学しました。その後、大学院歴史・人類学専攻で修士号を取得し、現在は学術書全般の編集の仕事をしています。

編集という仕事の日々は驚きの連続で、そこにはたくさんの人、たくさんのお話、たくさんの価値観がありました。各分野の知識が求められるのはもちろんですが、揺れ動く現場で、たくさんの声が語りかけてくる中、自分を見失わずに済んだのは、学類の頃の経験があったからだと思っています。

人文科学というゆるい括りの元で、専門も価値観も異なる個性あふれる先生方が集まり、出身も観念も異なるたのしい学生たちが集まっています。仲間にもライバルにも出会え、「好き」にも「嫌い」にもすぐに手が届きます。今年は何に挑戦してみよう？と、わくわくしながら科目一覧を眺めていた日々、それは今の私の仕事にも、きっと今後の人生にもつながっていく宝物です。専攻が定まらない人のこと指す「比文迷子」という言葉がありますが、迷った先に見える景色もありますので、みなさん、どうぞ好きなだけ迷ってみてください！



武智玖海人

公益財団法人日本交通公社 観光経済研究部 研究員
2012年度入学、2015年度卒業 文化地理学コース

比較文化学類文化地理学コースを卒業後、筑波の大学院で地理学を専攻し、現在は観光分野に特化したシンクタンクで研究員として働いています。政府観光統計や旅行市場調査の集計分析といった業務を中心に、観光の振興や発展に携わるお仕事をしています。

旅行や観光と聞くと身近で取っつきやすいイメージを持たれるかもしれませんが、実は様々な要素が絡み合った複雑なテーマの一つです。このテーマに取り組むには、1つの分野における専門性だけでなく、しなやかで分野横断的な思考や発想が必要だと日々感じています。

比較文化学類では地理学のみならず、外国語や歴史、文化、思想、メディア論など幅広い分野を学びました。そこで培った社会で起きている現象を多角的に捉え、分析する力が今の仕事に活かれています。

留学生も多くグローバルな筑波大学と学際的な比較文化学類の良さが相まって、“比文”で過ごす学生時代は皆さんの視野と活躍の場を大きく広げてくれるはずですよ！



公益財団法人日本交通公社
「旅の図書館」にて

伊藤智比古

流山市立博物館学芸員
2012年度入学、2015年度卒業 地域専攻日本研究分野

比較文化学類を卒業後、筑波大学大学院人文社会科学研究科歴史・人類学専攻に進学し、2020年4月に現職に就きました。

日本史や地域研究に興味を持って入学した私は、日本研究分野を選びました。卒業論文では、アジア・太平洋戦争の時代に刊行されていた子ども向けの週刊誌を分析し、当時の子どもたちに求められていた「小国民像」を考察しました。

現在、流山市立博物館で学芸員として働いています。博物館の主たる機能は資料を集め、保管し、それらを調査・研究し、展示・公開すること、あるいはその成果を普及することで、学芸員はそのすべてに関わる仕事です。その多岐にわたる業務から「雑芸員」と自嘲的に言われることもあります。そうした仕事の内容は、自分の専門とは関わらないことも珍しくありません。私自身の場合も、市内を走る鉄道の資料を調べる傍ら、展示会を企画し、あるいは古文書講座や子ども向けイベントの準備を進める……といった日々を送っています。



増田哲子

北海道大学 メディア・コミュニケーション研究院 准教授
1998年入学、2002年卒業 比較現代文化分野

私は、現在、北海道大学にて教員として働いています。学部生向けにスペイン語の授業と、大学院生向けにアートと社会についての授業を担当しています。比文の卒論でスペインの画家フランシスコ・ゴヤについて書き、さらに博士課程（筑波大学人文社会科学研究所）に進みました。大学院在学中には、スペインに1年半ほど留学もしました（楽しかった！）。現在も、ゴヤを中心としてスペイン近現代美術についての研究を続けています。

現在の北大の職場は、「メディア研究」という名がついていますが、歴史学、社会学、表象文化論、ジェンダー研究等の分野の研究者が共に働く学際的な環境です。こうした環境に私自身がすぐに馴染むことができたのは、比文での経験があったからです。教員も学生も、多様な関心をもつ人たちが集い、異なる立場から議論（というよりおしゃべりかも？）を交わしたり、ひとつの対象をさまざまな学問分野から考えるという比文ならではの経験があったからこそ、今、大学教員として働いているのかなと実感しています。



池上慶行

land down under 代表
2012年度入学、2016年度卒業 文化人類学専攻

比較文化学類で学んだ文化人類学を深めようと、京都大学大学院（修士課程）に進学。その後、就職・転職を経て、現在はアパレルブランドを営んでいます。

いつの、どんな経験や繋がりが、今の自分を助けてくれるのかわからないと思うことがあります。個人で活動する現在、とくに痛感します。だからこそ、好奇心をもって動き回ることや、垣根なく多様な人と関わることが大切だと感じます。

思い返せば、一見役に立つのかわからないような学問に触れたり、ニッチな知識・知恵をもった変人たちと交流したり、学生時代にこうしたことを「面白がれる」ようになったことが、今の自分を支えてくれています。

正直、部活動一色と言っても過言でなかった4年間で過ごしました。しかし、そのなかでも、かけがえのないことを学べたのは、各々のペースに寄り添うゆるやかな学風と、一方で、学ぶ意欲にきちんと応えてくれる環境が比文にあったからだと感じます。



倉富春奈

日本放送協会 ディレクター
2013年度入学、2016年度卒業 主専攻は比較宗教コース

現在、静岡局に勤務しています。ニュースのレポート、報道や旅、ドキュメンタリー番組の企画・制作を担当しています。仕事で大切にしているのは、自分の見方や考え方が全てではないという前提を持ち、相手はなぜその見方・考え方をするのか、客観的に受けとめるよう努めることです。振り返ると、こうした姿勢は、比較文化学類の学びで築かれたものだと感じます。専攻の比較宗教は、宗教を相対的に比較し「人はなぜ聖なるものを信仰するのか」という問いの答えを探す学問。国境や言語の違いを超えて、何かを信じ尊ぶ気持ちが共有されることに、人の心の豊かさ感じていました。とはいえ、大学時代の思い出というと、3食のソフトクリームを片手に、友人とひたすらおしゃべりしていた光景が浮かびます。一生の友との出会いも含めて、私の人生の礎になった時代です。自由気ままに、興味の赴くままに、比文で様々な学びに触れ、実り多き4年間にしていってください。



境野圭佑

茨城県立太田第一高等学校教諭
2015年度入学、2018年度卒業 日本研究コース

日本史と教職に関心があった私は、筑波大学を進学先に決めました。比較文化学類を選んだ理由は、自分の興味や関心に沿って主体的に学べるからです。

比文では、日本研究コースに所属し、伊藤純郎先生、山澤学先生のもとで地域史研究の基礎知識や方法論を学びました。また、広島や長崎に足を運び、京都の祇園祭を見学し、栃木県芳賀町で聞き取り調査を行い、卒論では石岡のまつりを題材に、創られた「伝統」に関して論じました。

比文を卒業後、修士課程教育研究科に進み、比文での研究テーマを発展させ、地域史を活用した歴史学習について修士論文を執筆しました。

令和3年度から高校地歴科の教員として茨城県立太田第一高等学校に勤務しています。常陸太田は晩年の水戸光圀が過ごした隠居所である西山荘がある地です。比文で培った研究手法を活かし、足元から問い直す歴史研究をこれからも続けたいと思います。そのような一生もののテーマを、みなさんも比文で見つけてみませんか。



卒業論文から大学院進学へ

ひぶん18院進組

卒業論文は、大学院進学（院進）を大学3年春から考えていた私にとって、ゴールではなく、「スタート地点に立つ」ということでした。コロナ禍の先の見えない不安のなかで、私同様に「スタート地点」に立とうとする友人たちと話したいという思いから、大学4年の6月に「ひぶん18院進組」を結成しました。情報共有・交流の場としてオンライン形式のミーティングを現在まで定期的で開催しています。12人の院進者（2018年入学・2022年卒）は同じ比文卒業といっても、歴史人類学・文学・国際公共政策・教育学・生物資源科学と専攻は様々です。今までもこれからも、良き戦友、仲間です。

廣瀬由子（文化人類学コース→筑波大院）

大学院入学後、ある先生から研究のコツの一つとして、「対話をする事」を教えてくださいました。そのお言葉の通り、「ひぶん18院進組」での、多様な関心を持つ気の置けない学友との雑談に、私自身多くの学びを見出ししています。萩原悠斗（日本研究コース→筑波大院）

比文から生物資源科学という全く違うところに飛び込んだ私にとって、院試や入学前後は不安の連続でしたが、そんな時にこの集まりは心の支えになってくれました。今は新しい環境にも慣れつつありますが、今でもみんなからは刺激をもらっています。宮本紫帆（文化地理学コース→筑波大院）

宮本紫帆（文化地理学コース→筑波大院）

自分は近代中国及び戦後台湾の歴史を研究していますが、やはり人文社会学を学ぶには好奇心と向上心を持ち続けることが大切だと思いますので、私にとって、様々な知識と感想について話し合える「ひぶん18院進組」は非常に重要です。劉承衛（アジア研究コース→筑波大院）

私は筑波から外部の大学院に進みました。みんなと悩む時期がずれてはいましたが、受験や卒論の悩みを共有できるような場はありがたかったです。気軽に聞いたら誰かが答えてくれる関係性は居心地がよかったです。

田中耕介（文化人類学コース→京都大院）



総合選抜で受験し、 2年次で比較文化学類に進む

比較文化学類で学ぶには、入学時から比較文化学類に所属する方法のほかに、入学試験を前期日程の「総合選抜」で受験する方法があります。

総合選抜での受験

〈個別学力検査等 前期日程(総合選抜)〉を、「文系」「理系Ⅰ」「理系Ⅱ」「理系Ⅲ」のいずれかの選抜区分で受験します。

総合学域群

入学後の1年間は「総合学域群」に所属します。ここで、さまざまな問題意識や将来の夢をもつ学生たちと接することができます。1年間の学びの後、所属する学類・専門学群が決まります。これを「移行」と呼びます。

・1年次の学修

学類・専門学群の学生と同様に、「共通科目」(体育、外国語、情報など)および各学類・専門学群が提供する全学向け入門科目である「専門導入科目」を主として学修します。

各学類・専門学群への入学者が、学類が定めた計画に沿って学修するのに対して、総合学域群の学生は、2年次での移行先を絞っていくために、複数の学類・専門学群の提供する科目をより幅広く学修することになるでしょう。比較文化学類を志望先の1つとするには、比較文化学類が提供する専門導入科目を2つ学修していれば大丈夫です。

・各学類・専門学群への移行まで

1年次のおわりに、2年次に「移行」する学類・専門学群が決まります。どの学類・専門学群に移行するかは、学生本人の志望と、入学後の成績等に基づいて決定します。

比較文化学類では、総合学域群から20名の学生を受け入れます。うち17名は「文系」優先受入枠です。また3名の範囲内で「理系」からも移行可能です。

*詳しくは、下記の総合学域群 Web サイトをチェックしてください。

URL <http://scs.tsukuba.ac.jp/>



2年次から卒業まで 比較文化学類生として

比較文化学類に移行した学生は、2年次から卒業まで比較文化学類生として学びます。総合学域群時代に培った広い視野や人間関係を生かしながら、充実した学生時代を送ってください。



Q

Q1: 前期日程の総合選抜と学類・専門学群選抜を併願できますか?

A

A1: できません。

Q2: 総合選抜と学類・専門学群選抜では出願資格に違いはありますか?

A2: ありません。

Q3: 総合選抜と学類・専門学群選抜の試験問題は違うのですか?

A3: 同じ問題です。

Q4: 高校時代の成績や入学試験での成績は学類・専門学群への移行に関係しますか?

A4: まったく関係しません。



参考 「文系」の学生が移行先として選びやすいのは…

「文系」選抜区分での入学者を優先して受け入れる学類

人文学類
比較文化学類
日本語・日本文化学類
社会学類
知識情報・図書館学類
看護学類

とくに優先受入枠を設けていない学類・専門学群

国際総合学類
教育学類
心理学類
障害科学類
医学類
芸術専門学群

ほかにも、体育専門学群を除くすべての学群・学類に移行する道があります

入試案内

■アドミッションセンター入学試験（AC入試）

試験時期／10月 試験科目／書類審査、面接 募集人員／5名

■推薦入学試験

試験時期／11月 試験科目／小論文、面接 募集人員／16名

■一般入学試験

試験時期／大学入学共通テスト1月・個別学力検査 前期日程2月

試験科目／（前期日程）大学入学共通テスト、個別学力検査

募集人員／学類選抜35名、総合選抜20名（2年次受入定員）

このほかに、以下の入試があります。

- 「外国学校経験者特別入試」（試験時期11月／試験科目 小論文、面接／募集人員4名）
- 「国際バカロレア特別入試」（国際バカロレア資格取得者が対象／試験時期11月／若干名）

令和7年度以降の入試情報については、大学入試課による広報（http://www.tsukuba.ac.jp/admission/undergrad/news_undergrad.html）をご確認ください。

問い合わせ先

〒305-8577

茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学 教育推進部 入試課

TEL. 029-853-6007（直通）

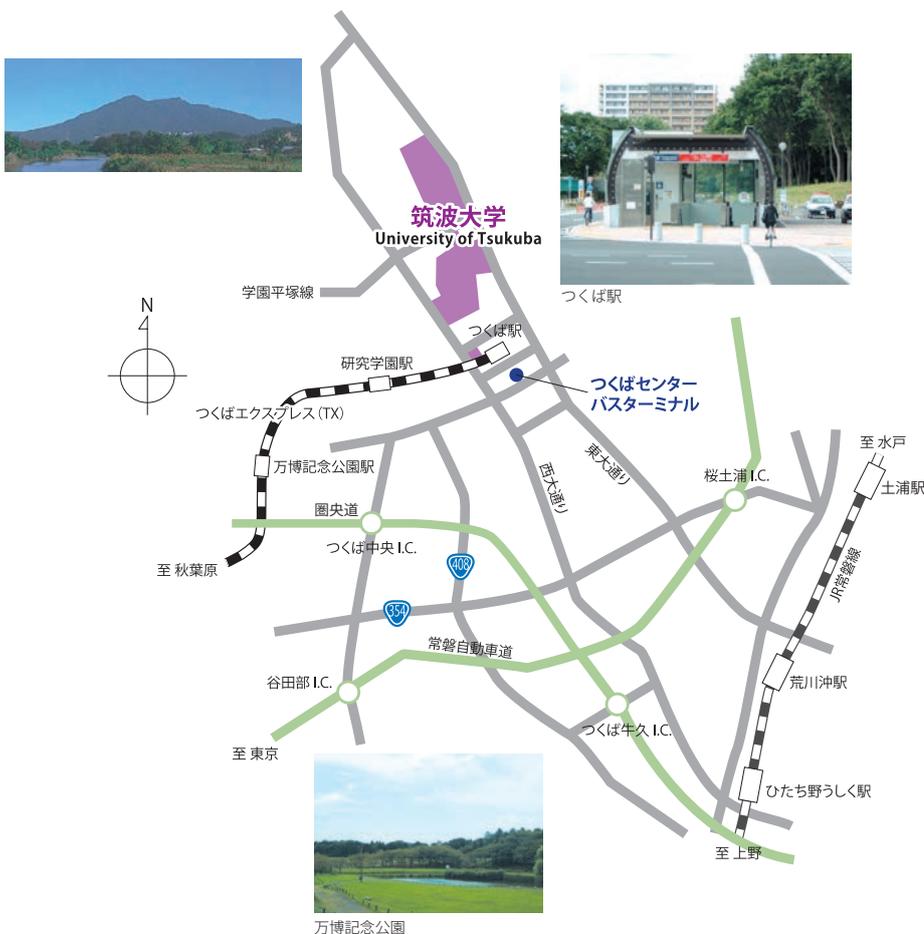
オープンキャンパス

比較文化学類についての詳しい情報はオープンキャンパスで！

変更の可能性があるので事前に必ずホームページ等で確認してください。

比較文化学類ホームページ <http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/>

アクセス



○つくばエクスプレス（TX）

秋葉原から終点「つくば」駅まで快速で約45分です。「つくば」駅からは「筑波大学循環」行きの関東鉄道バスに乗り換えてください。

○JR常磐線

土浦駅、荒川沖駅またはひたち野うしく駅のいずれかで下車し、バスを利用。一度「つくばセンター」のバスターミナルで「筑波大学循環」行きの関東鉄道バスに乗り換えてください。

○高速バス

東京駅八重洲南口高速バスターミナル発の「筑波大学」行き乗車で約75分です。また、水戸駅南口の「筑波大学」行き乗車で約100分です。

○自動車

常磐自動車道「桜土浦IC」で降り、「東大通り」を北上すると、約15分で筑波大学構内に着きます。または圏央道「つくば中央IC」で降りて、県道19号線と24号線を経由して北上する場合でも、約15分で筑波大学に到着します。

比較文化学類の教室や学類長室がある第二エリアには「筑波大学中央」のバス停が便利です。

筑波大学 比較文化学類

〒305-8572 茨城県つくば市天王台1-1-1

筑波大学 比較文化学類長室（筑波大学2C棟301-1）

TEL. 029-853-6751 FAX. 029-853-4551

<http://www.hibun.tsukuba.ac.jp/>